

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2012年 8月

「命の与え主キリスト」「変化させる恵み」「ヤコブの悩み（II）」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「命の与え主キリスト」

4

朝のマナ

「変化させる恵み」

9

神の驚くべき恵み

現代の真理

「ヤコブの悩み(Ⅱ) 一大患難(大いなる悩み)の時」

41

最後の出来事

力を得るための食事

「萹苳(ちしや)の豆腐あえサラダ」

52

お話コーナー

「元気なシマリス」

54

教会

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX：0494-26-5059

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：<http://www.4angels.jp>

メール：support@4angels.jp

発行日 2012年7月31日

編集&発行 SDA改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

イラスト：comstock.com p.1; Gettyimages p.1;

Sermonview p.9

油断のない警戒と熱心な働き

神はきたるべきさばきについていつも警告をお与えになってきた。自分たちの時代に対する神のみことばを信じ、神の戒めに従って信仰を实践した人たちは、従わない者たちや、信じない者たちの上に落ちかかったさばきをまぬかれた。「あなたと家族とはみな箱舟にはいりなさい。あなたがこの時代の人々の中で、わたしの前に正しい人であるとわたしは認めたからである」ということばがノアに与えられた(創世記 7:1)。ノアは従い、そして救われた。ロトに、「立ってこの所から出なさい。主がこの町を滅ぼされます」ということばが与えられた(創世記 19:14)。ロトは天の使者たちの守りに身をゆだね、そして救われた。そのようにキリストの弟子たちは、エルサレムの滅亡について警告を与えられた。きたるべき滅亡のしるしを見守っていた人たちは都をのがれて、滅亡をまぬかれた。そのようにいまわれわれは、キリストの再臨と世にのぞもうとしている滅亡について警告が与えられている。この警告に注意する者は救われるのである。……

主の来臨を待ち望んでいる者たちは、何もしないでただ期待して待っているのではない。キリストの来臨を期待することによって、人人は主を恐れ、不義に対する主のさばきを恐れるのである。彼らは主がさし出されたあわれみをこぼむ大きな罪を自覚するのである。主を待ち望んでいる者たちは真理に従うことによって自らの魂をきよめる。彼らは油断のない警戒に熱心な働きを結合する。彼らは、主が戸口におられることを知っているので、魂の救いのために天使たちと協力して働くように熱意をよび起こされる。こういう人たちが主の家族に、「時に応じて定めめの食事をそなえさせる忠実な思慮深い」しもべたちである(ルカ 12:42)。彼らはいま特にあてはまる真理を宣べ伝えている。エノク、ノア、アブラハム、モーセがそれぞれの時代のために真理を宣べ伝えたように、キリストのしもべたちはいまこの世代に対する特別の警告を与えるのである。(各時代の希望下巻 102,103)

創造主にして命の与え主なるキリスト

命の与え主キリスト

「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は初めに神と共にあった。すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった。この言に命があった。そしてこの命は人の光であった。光はやみの中に輝いている。そして、やみはこれに勝たなかった」(ヨハネ 1:1-5)。世はいやしいナザレの人のうちに神性を認めなかった。無限の神のひとり子が世におられた。そして、人々は、このお方の真のご品性のうちにごのお方を知らなかった。

「この言に命があった。そしてこの命は人の光であった」(ヨハネ 1:4)。ここで述べられているのは、肉体の命ではなく、不死すなわち、ただ神だけが所有しておられる命のことである。神と共におられ、神であられた言はこの命を持っておられた。肉体の命とは、各個人が受けるものである。それは永遠でも不死でもない。なぜなら、命の与え主なる神が再びそれを取られるからである。人は自分の命に対する支配権を持っていない。しかし、キリストの命は借りたものではない。だれもこの命をこのお方から取り上げることはできない。「わたしには、それを捨てる力がある」とこのお方は言われる(ヨハネ 10:18)。このお方のうちには、もともとの借り物でも派生したのでもない命があった。この命は人のうちに受け継がれていない。人はそれをただキリストを通してのみ所有することができるが、それを獲得することはできない。それは人がキリストを自分の個人的な救い主として信じるならば無償の賜物として与えられるのである。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります」(ヨハネ 17:3)。これは世のために開かれた命の泉である。

パウロはテモテに命じて次のように言っている。

「しかし、神の人よ。あなたはこれらの事を避けなさい。そして、義と信心と信仰と愛と忍耐と柔和とを追い求めなさい。信仰の戦いをりっぱに戦いぬいて、永遠のいのちを獲得しなさい。あなたは、そのために召され、多くの証人の前で、りっぱなあかしをしたのである。わたしはすべてのものを生かして下さる神のみま

えと、またポンテオ・ピラトの面前でりっぱなあかしをなされたキリスト・イエスのみまえで、あなたに命じる。わたしたちの主イエス・キリストの出現まで、その戒めを汚すことがなく、また、それを非難のないように守りなさい。時がくれば、祝福に満ちた、ただひとりの力あるかた、もろもろの王の王、もろもろの主の主が、キリストを出現させて下さるであろう。神はただひとり不死を保ち、近づきたい光の中に住み、人間の中でだれも見つかる者がなく、見ることもできないかたである」(テモテ第一 6:11-16)。

またパウロは手紙を書いて次のように言っている、「キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世にきて下さった」という言葉は、確実に、そのまま受けいれるに足るものである。わたしは、その罪人のかしらなのである。しかし、わたしがあわれみをこうむったのは、キリスト・イエスが、まずわたしに対して限りない寛容を示し、そして、わたしが今後、彼を信じて永遠のいのちを受ける者の模範となるためである。世々の支配者、不朽にして見えざる唯一の神に、世々限りなく、ほまれと栄光とがあるように」(テモテ第一 1:15-17)。

キリストによってもたらされた不死

キリストは、「福音によっていのちと不死とを明らかに示された(もたらされた)」(テモテ第二 1:10)。だれ一人として、このお方から離れ独立した霊的な命を持つことはできない。罪人は不死ではない。なぜなら、神は次のように言われたからである、「罪を犯した魂は必ず死ぬ」(エゼキエル 18:4)。これは、そこに表現されている通りのことを意味する。それはすべての人に共通している死の先にまで及ぶ。それは第二の死を意味している。人はこれに対して後ずさりし、あなたは人を獣のようになさるのですか、と言う。これは退化することだと考えられている。しかし、神の御目に人を高めるのは何であろうか。それは彼の金銭の蓄えであろうか。否、なぜなら、神は、金も銀もわたしのものであると宣言しておられるからである。もし人が自分に委ねられた宝を乱用するならば、神はそれを人が集めるよりもすみやかに散らすことができになる。人は輝かしい知性を持っているかもしれない。彼は生来の才能を豊かに持っているかもしれない。しかし、これらはみな神、すなわち人の造り主から人に与えられたものである。神はネブカデネザルが野の獣の水準にまで低くされたように、一瞬にして理性の賜物を取り除くことができになる。人があたかも神と関係なく自分で知恵や力を得たかの

ようにふるまうがゆえにこうなざるのである。

人は死すべきものに過ぎず、彼が自ら賢いと感じてキリストを受け入れないならば、死すべきものであり続けるしかない。人は知的世界で素晴らしいことを成し遂げたかもしれないが、だれがそうする力を与えたのであろうか—万軍の主なる神である。もし自分たちの空想的な力のうちに人が自分自身の力のゆえに勝ち誇り、自らに栄光を帰し、洪水前の世の例に倣うなら、彼らは滅びることになる。長寿の人類はただ悪いことばかりを、絶えず考えていた。彼らは悪を行うのにさとく、地はその住民の下で墮落していた。彼らが自らを知恵に無限なるお方と結びつけていたならば、彼らは神から与えられた能力とタラントをもって驚くべきことを成し遂げたはずであった。しかし、神に背を向けて、彼らは今日多くの人々がするように、サタンの導きに従うことを選んだ。そして主は彼らを、その誇っていた知恵もろともに地から一掃された。

人類は成したことのゆえに、世によって高められるかもしれない。しかし、人は自分に委ねられたタラント、すなわちもし正しく用いられるならば彼らを高めるはずのタラントを誤用し、横領することによって、神の御目にすみやかに自らを低めることも可能である。主は寛容であり、だれ一人として滅びることを望まれないお方であるが、いかなることがあろうと罪ある者を放免なさることはない。すべての人は次の主のみ言葉に注意を払うがよい。「それにどうしてあなたがたは、わたしが命じた犠牲と供え物をむさぼりの目をもって見るのか。またなにゆえ、わたしよりも自分の子らを尊び、わたしの民イスラエルのささげるもろもろの供え物の、最も良き部分をもって自分を肥やすのか」。それゆえイスラエルの神、主は仰せられる、『わたしはかつて、「あなたの家とあなたの父の家とは、永久にわたしの前に歩むであろう」と言った』。しかし今、主は仰せられる、『決してそうはしない。わたしを尊ぶ者を、わたしは尊び、わたしを卑しめる者は、軽んぜられるであろう』(サムエル記上 2:29-30)。

神はご自分に従う人々を尊ばれる。「主はわたしの義にしたがってわたしに報い、わたしの手の清きにしたがってわたしに報いかえされました。わたしは主の道を守り、悪意をもって、わが神を離れたことがなかったのです、そのすべてのおきてはわたしの前にあって、わたしはその定めを捨てたことがなかったのです」(詩篇 18:20-22)。

いかにして永遠の命を得るか

キリストを信じる信徒だけが永遠の命を得ることができる。絶えずキリストの肉と血を食することによってのみ、わたしたちは神性にあずかる者であるとの保証を得ることができる。だれも、わたしたちが正直でありさえすれば何を信じよう問題ではないと言って、この主題について無関心であるべきではない。自分自身やだれか他の人を喜ばせるために命の真理のためを一つでも放棄しては安全ではない。十字架を避けようとしてはならない。もしわたしたちが義の太陽から光を受けないのであれば、あらゆる光の源であるお方とは何のつながりもない。そしてもしこの命と光がわたしたちのうちにないならば、わたしたちは決して救われ得ないのである。

神は人の創造におけるご自分のご目的がサタンによって妨げられることの内容にあらゆる備えをなさった。アダムとエバが自分たちの不従順によってこの世に死をもたらした後、人類のために高価な犠牲が備えられた。人々がもともともっていたよりも高い価値が彼らにおかれた。ご自分のひとり子なるキリストを世の贖い代として与えることによって、神は全天を与えて下さったのである。

キリストを受け入れることは、人類に価値を与える。このお方の犠牲は、キリストを自分の個人的な救い主として受け入れるすべての人々に命と光をもたらす。イエス・キリストを通しての神の愛は、父なる神の律法の生命力を携えているこのお方の体の一人びとり肢体の心のうちに広く降り注がれる。こうして神は人と共に宿り、人は神と共に宿る。パウロは次のように宣言している。「生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである」(ガラテヤ 2:20)。

もし人が信仰を通してキリストと一つになるならば、その人は永遠の命を勝ち取ることができる。神はキリストを通して贖われる人々をご自分の御子を愛されるように愛される。なんという思想であろうか!神は罪人をご自身の御子を愛されるように愛することがおできになるであろうか—しかり。キリストがそう仰せになったのであり、このお方が言われたことはまさにそのとおりを意味している。もしわたしたちが生きた信仰によってこのお方の約束をつかみ、このお方に信頼をおくならば、このお方はわたしたちの引き網をみな尊んでくださる。このお方を見て、

生きよ。神に従う人はみな、キリストがご自分の御父に捧げられた祈りの中に含まれている。「そしてわたしは彼らに御名を知らせました。またこれからも知らせましょう。それは、あなたがわたしを愛して下さったその愛が彼らのうちにあり、またわたしも彼らのうちにおるためであります」(ヨハネ 17:26)。すばらしい真理であり、人類が把握するにはあまりにも難解である!

キリストは「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない」と宣言される(ヨハネ 6:35)。「わたしの父のみこころは、子を見て信じる者が、ことごとく永遠の命を得ることなのである。そして、わたしはその人々を終りの日によみがえらせるであろう」(ヨハネ 6:40)。「よくよくあなたがたに言うておく。信じる者には永遠の命がある」(ヨハネ 6:47)。「イエスは彼らに言われた、「よくよく言うておく。人の子の肉を食べず、また、その血を飲まなければ、あなたがたの内に命はない。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者には、永遠の命があり、わたしはその人を終りの日によみがえらせるであろう。わたしの肉はまことの食物、わたしの血はまことの飲み物である。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者はわたしにおり、わたしもまたその人におる。生ける父がわたしをつかわされ、また、わたしが父によって生きてるように、わたしを食べる者もわたしによって生きるであろう。天から下ってきたパンは、先祖たちが食べたが死んでしまったようなものではない。このパンを食べる者は、いつまでも生きるであろう」(ヨハネ 6:53-58)。「人を生かすものは霊であって、肉はなんの役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である」(ヨハネ 6:63)。

セレクトド・メッセージ 1巻 295～300

神の驚くべき恵み

God's Amazing Grace



8月 「変化させる恵み」

奇跡

「さらに神も、しるしと不思議とさまざまな力あるわざとにより、また、御旨に従い聖霊を各自に賜うことによって、あかしをされたのである。」(ヘブル 2:4)

キリストは、パリサイ人の要求によって奇跡を行われたことはなかった。彼は荒野でサタンのおそのかしにに応じて奇跡を行われなかった。キリストは、われわれが自分自身を弁護したり、不信と高慢の要求を満足させたりするために、われわれに力をお与えにならない。しかし福音が神から出たものであることを示すしがないわけではない。われわれがサタンの束縛をたち切ることができるのは、一つの奇跡ではないだろうか。サタンに対する敵意は人の心に自然にあるものではなくて、それは神の恵みによってうえつけられるのである。頑固で、わがままな意志に支配されていた者が自由になり、神が天の使者を通して引きよせられるのに全心全霊をもって応ずるとき、一つの奇跡が行われる。強力な欺瞞に陥っていた人が道徳的真理をさとるようになった時もそうである。魂が悔い改めて、神を愛し、神の戒めを守るようになるたびに、「わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい霊をあなたがたの内に授け」との神の約束が成就される(エゼキエル書 36:26)。人間の心の変化、すなわち人の品性が一変することは、一つの奇跡であって、それは生きておられる救い主が魂を救うために働いておられる証拠である。キリストのうちにあって矛盾のない生活は、一つの大きな奇跡である。神のみことばが説かれるときにいつもあらわされるしるしは、聖霊が臨在されて、聞く者にそのことばを新生の力としてくださることである。これこそ神がご自分のみ子の使命について世人の前に示されるあかしである。(各時代の希望中巻 170, 171)

多くの人々は、まったく失望してしまっている。……彼らはキリストの福音を把握したり、受け入れたりすることは不可能なものとして眺めている。しかしなお、神聖な恵みの奇跡によって彼らは変わることができる。彼らを引き上げることはあまりにも希望がないようにみえる愚かさは、聖霊の働きの下で過ぎ去る。……悪徳は消え、無知は克服される。(教会への証 7巻 229)

神のみ座から下ろされている鎖は、最も低い深みに届くほど十分に長い。キリストは最も罪深い者も墮落の穴から引き上げ、彼らを神の子、すなわち不死の嗣業を継ぐご自分と共同の相続人として認められるところへおくことがおできになる。(同上)

驚くべき変化

「こうしてわたしたちは、全世界に、天使にも人々にも見せ物にされたのだ。」(コリント第一 4:9)

主イエスはご自分の憐れみと豊かな恵みの現われを通して、人間の心に実験を施しておられる。このお方はあまりにも驚くべき変化をもたらし、サタンはその勝ち誇った自慢および神とこのお方の統治の律法に敵対して結託した悪の同盟共々に立ち尽くして、彼らを自分の詭弁や惑わしに対する不落の要塞のごとく眺めている。彼らはサタンにとって理解しがたい神秘である。神の御使たち、セラピムとケルビム、人間の代理人と協力するために任務を帯びた権力者たちも、驚きと喜びをもって、墮落し、かつては怒りの子であった人類が、神のむすこ娘となり、天の仕事と喜びに重要な役割を果たすために、キリストの訓練を通して神聖なかたちに従って品性を発達させているのを見る。

ご自分の教会に、キリストはご自分が贖われ、買われた所有物から栄光の大きな報いを受けることができるために、豊かな便宜を与えてくれた。教会はキリストの義を授けられ、このお方の憐れみ、愛、恵みの富のあるこのお方の宝庫であり、それらに満ちみちて最終的にあらわれるようになる。わたしたちに対する御父の愛はご自身、すなわちひとり子に対するのと同じように大きく、わたしたちはこのお方のおられるところにこのお方と一つになり、永遠にキリストと御父と一つになるというこのお方のとりなしの祈りにおける宣言は、天の万軍にとって驚きであり、それは彼らの大いなる喜びである。豊かに満ちあふれるこのお方の御霊の賜物は、このお方の教会にとって、黄泉の力が勝つことのできない火の垣となるのである。彼らの汚れのない純潔さとしみのない完全さのうちに、キリストはご自分の民を、ご自分のすべての苦しみと屈辱と愛の報いとして、またご自分の栄光—あらゆる栄光が放射する偉大なる中心キリスト—を補完するものとしてご覧になる。(牧師への証 18, 19)

全天は、地における神のご目的を果たす手となり、ひいては天で神の御旨をなすこれらの代理人たちを見ている。このような協力は、神に誉れと栄光と大権をもたらす働きを成し遂げる。ああ、もし滅びつつある人々が破滅から救われるように、すべての者がキリストが愛されたように愛するならば、わたしたちの世界になんとという変化がもたらされることであろう! (教会への証 6巻 457)

新たにされる心

「心の深みまで新たにされて、真の義と聖とをそなえた神にかたどって造られた新しき人を着るべきである。」(エペソ 4:23, 24)

キリストは、忠実な譴責者であられた。……すべての不誠実で卑劣なことにとってキリストの存在は、一つの譴責であった。キリストの純潔さに照らされる時、人は自分がいかに汚れ、おのが人生の目的がいかに卑劣で虚偽なものであるかを認めた。それでもなおキリストは、彼らをひきつけられた。人類を創造されたキリストは、人間の価値を理解することがおできになった。……

ひとりびとりの人間の中に、キリストは無限の可能性をみとめられた。キリストは人類を、ご自分の恩恵によって「われらの主なる神のうるわしさ」(詩篇 90:17) に、生まれ変わらせ得る者としてごらんになった。(教育 79, 80)

品性のあらゆる欠点は心のうちに始まる。誇り、虚無、悪の気質、貪欲はキリストの恵みによって新たにされていない肉の心から出てくる。(わたしたちの高い召し 336)

神の恵みが、人の生活を変化させるのは、心を新たにすることによってである。単なる外的変化だけでは、わたしたちを神と調和させるのに不十分である。人びとは、種々の悪習慣を改め、心を入れかえて、クリスチャンになろうと望むのであるが、それでは、出発点が誤っているのである。まず始めるべきところは、心なのである。……

聖書は、この品性の変化における偉大な媒体である。キリストは次のように祈られた、「真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります。」(ヨハネ 17:17)。もし研究し、従うなら、神のみ言葉は心のうちに働いて、すべての清くない特質を従わせる。聖霊は罪を自覚させ、心のうちに生じる信仰がキリストへの愛によって働き、わたしたち、すなわち体と魂と霊をこのお方のみ旨に調和させる。……

わたしたちは労を惜しまず、わたしたちの生活においてなされなければならない改革の働きを熱心に前進させよう。自己を十字架につけよう。きよくない習慣が支配権を求めてやかましく叫ぶであろうが、イエスの御名において、かつこのお方の力を通して、わたしたちは勝利できる。勤勉さの限りを尽くして自分の心を守ろうと日々求める人に、次の約束が与えられている。「死も生も、天使も支配者も、現在のもも将来のもも、力あるものも、高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのである」(ローマ 8:38, 39)。(ビュー・アンド・ヘルド 1904年7月7日)

それは時間がかかる

「主なるわたしはこれを守り、常に水をそそぎ、夜も昼も守って、そこなう者のないようにする。」(イザヤ 27:3)

男女の思いは、純潔と聖潔から、腐敗や墮落や犯罪に、一瞬のうちに落ち込むのではない。人を神聖な者に、また神のかたちにかたどられた人々を獣や悪魔のように低下させるには時間がかかる。わたしたちは眺めることによって変えられる。自分の造り主のかたちにかたどられたとしても、人はかつて憎んだ罪を自分にとって心地よいものとするよう自分の思いを教育することもできる。彼が目覚めて祈ることをやめるとき、彼は要塞、すなわち心を見張ることをやめる。……肉の思いに対する継続的な闘いが維持されなければならない。そしてわたしたちは神の恵みの精練する感化力によって助けを受けなければならない。それは思いを上を引きつけ、純潔で聖なる事柄を瞑想することを習慣にさせるのである。(教会への証 2 巻 478, 479)

品性は偶然に生じるものではない。怒りを一度爆発させることによって、あるいは間違った道に一步踏み込むことによって、決定されるものでもない。その行為を繰り返すことによって、それが習慣となり、善か悪のどちらかに品性を形造っていくのである。正しい品性は、ただしんぼう強い不屈の努力によって、そして託されたタラントや能力を神の栄光のために活用することによって、つくられていくのである。(家庭の教育 161)

わたしたちが目の前に示された模範にならって品性を築くよう、神は期待しておられる。わたしたちは、ちょうどレンガを一つずつ積み上げるように、恵みに恵みを加え、自分の弱点を見出したなら、与えられた指示に従ってそれを改めていくようにしなければならない。(同上 162, 163)

神は、ご自分がよしとお認めになることのできる品性をわたしたちが築くことができるよう、わたしたちに力と理性と時を与えておられる。神は、ご自分の子ら一人ひとり、清く気高い行いをすることによって立派な品性を築き、ついには、神と人から尊ばれるような、調和の取れた建物、美しい宮となるよう望んでおられるのである。……

主のための美しい建物になりたいと思う人は、持っているあらゆる力を伸ばさなければならない。タラントを正しく用いることによるのみ、品性は調和の取れた成長をしていくのである。このようにする時わたしたちは、み言葉の中に金・銀・宝石として表わされているもの、すなわち神の清めの日の試練に耐え得る材料を、土台の上に積むことになるのである。(同上 163)

鍵となる決心

「なぜなら、わたしはイエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト以外のことは、あなたがたの間では何も知るまいと、決心したからである。」(コリント第一 2:2)

多くの人はキリストのうわしさと天の栄光に引きつけられながらも、それらを自分のものとするのできる唯一の条件を回避するのである。……自分の意志を放棄し、自分の好きなものやしたいことを捨てることは犠牲を要するので、彼らは、ためらい、また引き返していくのである。……彼らは良いものを望み、それを得ようとしていくらかの努力はする。しかし、それを選ばないのである。彼らはすべてのものを犠牲にしてもそれを得ようという確固たる目的を持っていない。

勝利を得ようとする者にとって、唯一の勝つ見込みは、自分の意志を神の意志と一致させ、毎日、毎時間、神と協力して働くことにある。わたしたちは自己を保持したまま神の国にはいることはできない。もしわたしたちがきよさに達するとすれば、それは自己を捨て、キリストの心を心とすることによってである。高慢とうぬぼれとは十字架につけられなければならない。わたしたちは、要求される価を喜んで払うであろうか。わたしたちは、自分の意志を喜んで神の意志と完全に一致させるであろうか。わたしたちが同意しない限り、神の変化させる恵みはわたしたちの上にあらわされない。(祝福の山 178)

徹底的に自らを知るようになり、それからわたしたちの側の固い決心を神の恵みと結合させることによって、わたしたちは勝利者となり、万事において完全で、いささかも欠けるところのない者となることができる。(今日のわたしの生涯 97)

難局に当面した場合には、それに打ち勝つ決心がなければならぬ。一つの障害を打ち破ると、前に進むいっそうの能力と勇気がわいてくるものである。正しい方面に向かって断固として進むとき環境は、妨げとはならず、かえって、わたしたちの助けとなるのである。(キリストの実物教訓 306)

真のクリスチャン品性は、世の感化力に屈することを拒み、聖書の標準に達することだけを目指す一途な目的と不屈の決意に特徴づけられる。……キリストに従う者の献身は完全でなければならない。……彼は神のみ摂理のうちに、何に苦しむよう召されても、自ら進んで忍耐強く、快活に、喜んで耐えなければならない。彼の最終的な報いは、キリストと共に不死の栄光のみ座に座することである。(SDA パイブル・コメント [E.G. 柯仲・コメント] 2 巻 1003)

家庭で感じられる

「主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます」(使徒行伝 16:31)

伝道の働きは家庭でなされるべきである。ここでキリストを受け入れた人々は恵みが自分たちのために何をしたかを示すべきである。神聖な感化力がキリストを信じる真の信徒を支配する。そして、この感化力はおのずと家庭全体を通じて感じられ、家庭にいるすべての人の品性の完全さのために益となる。……

教会は、主の家族のすべての人、特に若いメンバーが注意深く守られるように、主の家族の得られる限りすべての霊的な強さを培う必要がある。家庭で生きる真理は、外でなされる無私の働きのうちに、おのずと感じられる。家庭でキリスト教を生きる人は、どこでも明るく輝く光となる。(今日のわたしの生涯 221)

神は主の軍隊に子供と青年たちが加わることを望んでおられる。……彼らは誘惑に抵抗し、信仰の良き戦いを戦うために訓練されなければならない。彼らが理解しやすい単純な言葉で語られるあなたの教訓を理解することができるようになったら、すぐに彼らの思いをイエスに向けさせなさい。彼らに自制を教えなさい。若い時に勝利する働きを始めるように教えなさい。そうすれば、祈りを伴った親の努力と結びついて、彼らはイエスが与えることで、また与えようとしておられる尊い助けを受けるようになる。イエス・キリストから彼らに与えられる恵みを通して、誘惑に抵抗し、勝利者として出てくることにおいて彼らが戦っている闘いのために、励ましの言葉をもって応援しなさい。(彼を知るために 42)

家庭の環の調和はしばしば性急な言葉や悪用された言葉によって破られる。それを言わずにおくならば、どれほどはるかに良いことであろう。一つの心地よいほほ笑み、柔和な精神において語られた一つの平和な是認の言葉は、落ちつかせ、慰め、祝福する力となる。……多くの人々は、「わたしは傷つきやすく、性急な性質なのです」と言って、性急な言葉や感情的な気質の言い訳をする。これによって性急で感情的な言葉による傷を癒されることは決してない。……生来の人は死ななければならない。そして新しい人、すなわちキリスト・イエスが魂の所有権をとらなければならない。……あなたは自分の生活によって、生来の人間をキリスト・イエスにおける霊的な人間に変えるのに、神の力と恵みに何ができるかを示すことができる。(教会への証 4 卷 348, 349)

この世が知るために

『「あなたがたはわが証人である」と主は言われる。わたしは神である』（イザヤ 43:12, 13)

生きたクリスチャンには、担うべき生きた証がある。もしあなたがイエスに一步一步従ってきたならば、このお方があなたを導いてこられた方法について語るのに要点に触れたことが何かあるはずである。あなたはどのようにこのお方のみ約束を試し、そしてその約束が真実であったことを発見したかを語るすることができる。あなたは過去何年にもさかのぼることなく、自分の経験における生きた点を指し示すことができる。わたしたちはもっと頻繁に心の闘いと勝利の単純で熱心な証をもっと頻繁に聞くことができるはずである。……

すべての真のクリスチャンには、真理の原則に同意すると共に、それを実践するために戦うべき闘いがある。……わたしたちの救いの将は、行動の戦場からの新鮮な証人を求めておられる。真理の敵と魂の敵によって激しく攻撃されてきた人々、また試練の時のキリストがなされたように自らふるまってきた人々には、担うべき証があり、それは聞く者の心を揺さぶる。彼らはまことにイエスのための証人である。(ビュー・アンド・ヘルド 1881年12月20日)

わたしたちはつねに模範の力を自覚しているわけではない。わたしたちは他の人々と接触するように導かれる。誤っている人、さまざまな方法で間違いを犯す人々と会う。彼らは気難しく、短気で、感情的で、専横的かもしれない。これらの人々を扱うときに、わたしたちは忍耐強く、寛容で、親切で、優しくなければならない。……わたしたちはみな直面しなければならない試練や困惑がある。なぜなら、わたしたちは心配や不安や失望の世界にいるからである。しかし、これらの耐えざる悩みにはキリストの精神をもって対処しなければならない。恵みを通して、わたしたちは自分たちの状況に超越し、日常生活のいらだちや心配ごとのただ中で静かで落ちついた精神を保つことができる。わたしたちはこうして世にキリストを表わすのである。(わたしたちの高い召し 243)

キリストは世を救おうとしておられるが、それは世に同調することによってではなく、キリストのご品性のみかたちに従って人間の品性をかたどり形成するための、神の恵みの変化させる力を世に明らかにすることによってである。(神のむすこ娘たち 123)

神の恵みは、それを受ける人の生活と品性に、驚くべき変化の働きをなすのである。そして、もしわたしたちが真にキリストの弟子であれば、世は神聖な力がわたしたちに何かを成し遂げたことを認めるようになる。なぜなら、わたしたちは世に生きていながら、世のものでないからである。(今日のわたしの生涯 252)

霊的な命を支える

「イエスは彼らに言われた、『わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。』」（ヨハネ 6:35）

神は、み言葉、聖書をもってわたしたちに語っておられる。み言葉は、神のご品性、神の人類を扱われる方法、また贖罪の大業をもつとはつきりした言葉で啓示している。そして父祖たちや預言者たち、また、昔の聖者たちの歴史が繰り広げられている。かれらは「わたしたちと同じ人間」（ヤコブ 5:17）であって、わたしたちと同じように失望と戦い、また、わたしたちと同じように誘惑に負けたが、再び勇気を出して、神の恵みによって勝を得たことを知るとき、わたしたちも義を追い求めて戦っていかねばならないと励まされるのである。かれらが与えられた尊い経験を読み、かれらが受けた光と愛と祝福について学び、かれらが与えられた恵みによってなした働きについて読むとき、かれらに靈感を与えた同じ精神が、わたしたちの心にもそうしたいという励む気持を起させ、かれらの品性に似て、かれらのように神と共に歩みたいと望むようになる。

イエスは、旧約について「この聖書は、わたしについてあかしをするものである」（ヨハネ 5:39）と仰せになったが、新約については、なおいっそうそうであるといわねばならない。……もし救い主を知りたいと思えば、聖書の研究をするにまさるものはない。神のみ言葉を心に満たそう。神のみ言葉こそはかわきをいやす生ける水である。また、天よりの生けるパンである。……わたしたちのからだは、わたしたちが飲み食いする物から成り立っている。霊的な世界においても自然界と同じであって、わたしたちの考える事柄がわたしたちの霊性に力と健康を与えるのである。（キリストへの道 119～121）

霊的な命は、キリストの言葉を通してのキリストとの交わりによって支えられなければならない。思いはそれにとどまっていなければならない。心はそれに満たされていなければならない。心の中に蓄えられ、神聖に大事にされ、従われる神のみ言葉は、キリストの恵みの力を通して、人を正しくし、また正しく保つことができる。（ヘレナ・マッセジ 2巻 125）

このお方の指示の言葉が受け入れられ、それがわたしたちをとらえるとき、イエスがわたしたちにとって永続的な存在となり、わたしたちの思想と考えと行動を支配してください。……イエス・キリストはわたしたちにとってすべて—すべてにおける最初、最後、最上—となられる。（牧師への証 389）

キリストのご品性を表す

「主、主、あわれみあり、恵みあり、怒ることおそく、いつくしみと、まこととの豊かなる神」(出エジプト記 34:6)

「神のみ言葉の中に表わされているとおりのあらゆる過去の光、現在を照らし、将来に届いているあらゆる光は、それを受けるすべての魂のためである。この光の栄光は、すなわちキリストのご品性の栄光そのものであるが、個々のクリスチャン、家族、教会、神のみ言葉の牧会、そして神の民によって設立された一つ一つの施設の中に表わされるべきである。主が計画されたこれらすべてのものは、世のために何をなし得るかの象徴となる。それらは、福音の真理の救う力の型となるべきである。……

教会の中で表わされる神のいつくしみ深さ、憐れみ、正義、そして愛をながめることによって、世はこのお方のご品性の表れを得るべきである。……

神のご品性を表すために、……わたしたちは個人的に神を知るようにならなければならない。もしわたしたちが神との交わりを持っているなら、たとえ一度も会衆に説教することがなくても、このお方の牧師である。わたしたちは人性におけるこのお方のご品性の完全さを表すことにおいて、神と共に働く同労者である。

神はご自分の人間代理者に、ご自分の恵み、知恵、またご自分の寛大さを証し、このお方の精練された優しく憐れみ深い愛を表わすことによって神のご品性を伝えるという義務を課しておられる。……

わたしたちの働きは、イエス・キリストによって神からわたしたちに豊かに与えられている恵みを通して、人のうちに神の道徳的なみかたちを回復することである。……ああ、わたしたちは品性においてこのお方を表わすために、どれほどイエスとわたしたちの天父を知る必要があることであろう!(彼を知るために 45)

キリストの恵みによって造りかえられた魂は、キリストのきよい品性をほめたたえる。……自分の無価値なことを悟れば悟るほど、救い主の限りない純潔とうるわしさがわかってくる。自分の罪深いことを知ってゆるしを与えてくださる救い主のもとに走りより、魂の力なさを悟ってキリストに手をのべる、すると、キリストは力のうちにご自身を表して下さる。必要に迫られ、キリストと神のみ言葉に近づけば近づくほど、わたしたちはキリストの品性をもっとよく知ようになり、そのみかたちをもっと十分に反映するようになる。(キリストへの道 86, 87)

今、完全に？

「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」(マタイ 5:48)

神がご自分の御子を世にお与えになったとき、このお方は男女が自分という存在のすべての能力を神の栄光のために用いることによって、完全になることができるようにして下さった。キリストのうちに、このお方はご自分の恵みの富とご自分のみ旨の知識を彼らに与えて下さった。彼らが自己を空にし、導きを求めて神により頼むことによって謙遜のうちに歩むことを学ぶとき、人は自分たちのための神の高いご目的を果たすことができるようになる。(ビュー・アンド・ハルド 1909年 4月 22日)

品性の完全は、キリストがわたしたちにとってどのようなお方かに基づいている。もしわたしたちが自分たちの救い主の功績に絶えずより頼み、このお方のみ足の跡を歩むならば、わたしたちはこのお方のように、純潔で汚れないものとなる。

わたしたちの救い主は、だれからも不可能を要求なさることはない。このお方がご自分の弟子たちに期待なさることは、行うための恵みと力をご自分が与えようとしておられることだけである。このお方はご自分がこれほど高く聖なる特権を与えている人々に、すべての恵みの完全さを意のままに授けようとしておられるのでなければ、彼らに完全になるようにとは要求なさらない。……

わたしたちの働きは、キリストがご自分の地上の生涯において、品性のあらゆる面で得られた完全さを、自分たちの行動の領域において得るために奮闘することである。万事につけ、わたしたちは品性において神を尊ぶために奮闘すべきである。……わたしたちはこのお方がわたしたちに与えると約束された力に完全により頼むべきである。(彼を知るために 130)

イエスは、人がイエスを信じる信仰を通して持つことのできないような特性をあらわしたり、能力を働かせたりされなかった。キリストの完全な人性は、キリストに従うすべての者が、キリストと同じように神に服従するときに所有することのできるものである。(各時代の希望下巻 147)

わたしたちの救い主は、人全体の完全のための救い主であられる。このお方は存在の一部分の神ではない。キリストの恵みは、人間の構造全体を律するために働く。このお方はすべてを造られた。このお方はすべてを贖われた。このお方は、魂と同様に、思い、力、体を、神性にあずかるものとされ、すべてはこのお方の買われた所有物である。このお方は思い、心、魂、力を尽くして仕えられなければならない。そのとき、主はご自分の聖徒たちが関わりをもつ一般的な現世の事柄においてさえ、彼らのうちに栄光をお受けになる。彼らの上におかれる銘には「主に聖なるもの」とあるであろう。(彼を知るために 331)

永遠に広がる感化力

「あなた自身を良いわざの模範として示し、人を教える場合には、清廉と謹厳とをもってし、非難のない健全な言葉を用いなさい。」(テトス 2:7, 8)

キリストの一生は、どこまでも限りなく感化を及ぼした。この感化は、キリストを神と全人類家族とに結びつけた。神は、キリストを通して、人間に感化力を与えておられるから、人は自分だけの生活をする事ができない。わたしたち個人個人は、神の総合体の一つとして、同胞と結ばれていて、お互いに義務づけられている。わたしたちの幸福は他の人にも関係があるものであるから、だれ一人として、同胞から独立することはできない。各自が、自分は他の人の幸福のために必要であることを感じ、他人の幸福の増進のために努力することを、神は望んでおられる。……

わたしたちは、だれでも、このように自分のまわりに、一種のふんい気をもっていて、意識的に、または、無意識に、接する人びとに感化を及ぼしているのである。……

わたしたちのことば、行為、服装、態度、あるいは、顔の表情でさえも、感化力を持っている。……もしわたしたちが、自分たちの模範によって、又ひとびとの心の中によい原則を植えつけるのを助長したとすれば、彼らに善を行なう力を与えることになる。彼らはまた彼らで、同じ感化を他の人びとに与え、その人びとはまた他の人びとへと感化を及ぼしていく。こうして、わたしたちが、無意識のうちに及ぼした感化によって、幾千もの人びとが祝福を受けるようになる……

品性は力である。真実で無我の信心深い生活の無言のあかしは、どんな人をも感化しないではおかない力を持っている。わたしたちの生活の中に、キリストの品性をあらわすことによって、わたしたちは、救霊の働きをキリストと共にするのである。わたしたちが、キリストと協力できるのは、わたしたちの生活に、キリストの品性をあらわすことによるのみである。そして感化の範囲が広ければ広いほど、それだけ、善をなす範囲も広い。神に仕えるという者が、その日常生活において、律法の原則を実行して、キリストの模範に従うとき、すなわち、何をしても、その行為によって、彼らが神を何ものよりも愛し、隣人を自分のように愛していることを示すときに、教会は、世界を動かす力をもつようになるのである。

しかし、感化は同様の力をもって悪にも誘うものであることを忘れてはならない。自分の魂を失うことは、恐ろしいことである。けれども他の魂を滅びにおとし入れることは、さらに恐ろしいことである。……ただ神の恵みによってのみ、わたしたちは、このたまものを正しく用いることができる。(キリストの実物教訓 314～317)

純潔にされた心

「彼についてこの望みをいだいている者は皆、彼がきよくあられるように、自らをきよくする。」(ヨハネ第一 3:3)

ここに人のなすべき働きがある。人は鏡、すなわち神の律法をまのあたりにし、自分の道徳的品性のうちにある欠点を見分け、自分の品性の衣を小羊の血の中で洗って自分の罪を取り除かなければならない。妬み、誇り、悪意、欺き、争い、また悪事は、キリストの愛を受ける心、またわたしたちがこのお方のありのままのみ姿を見るときにこのお方のように変えられるという望みを抱いている心から清められる。キリストの宗教は、人生における交際や地位が何であろうと、それを持つ人を精練し、高貴にする。啓発されたクリスチャンとなる人々は、自分たちのかつての品性の標準を超えて、より大きな知的また道徳的力へと向上する。これらの罪と悪事によって墮落し、低下していた人々は、救い主の功績を通して、御使たちの地位より少し低いところにまで高められる。

しかし、福音の希望の感化力は、罪人が神の律法の不法のうちに生活し続けながら、キリストの救いを無償の恵みの問題だと見るようには導かない。真理の光が彼の思いを照らし始め、彼が神のご要求を完全に理解し、自分の不法の程度を悟るとき、彼は自分の方法を改革し、自分の救い主から得た力を通して、神に忠実な者となり、新しくより純潔な生活を送る。(教会への証 4 巻 294, 295)

わたしたちには、神聖な型であるお方に従って品性をかたちづくるという働きがある。あらゆる悪習慣は放棄しなければならない。不純な者は、心において純潔な者となり、利己的な者は、自分の利己心を捨て、誇り高い者は、誇りを取り除き、自己満足している者は、自身を克服し、キリストなしには自分が無に等しいことを悟らなければならない。……わたしたちは神と生きたつながりを持たなければならない。(ビュー・アンド・ワード 1885 年 11 月 17 日)

頑固で反動的な心は、神の恵みのあらゆる芳しい感化力や聖霊のうちにあるあらゆる喜びに対して、戸を閉ざすことができる。しかし、知恵の道は、喜ばしい道であり、その道はことごとく平安である。わたしたちがキリストと密接につながればつながるほど、わたしたちの言葉や行動はますます、征服し変化させるキリストの恵みの力を示すようになる。(教会への証 4 巻 626)

眺めることによって変えられる

「わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである。」(コリント第二 3:18)

清くないものから清いものに変える働きは、継続的なものである。毎日、神は人のきよめのために働いて下さる。だから人は、神に協力して、辛抱強く、正しい習慣を養う努力をしなければならない。人は恵みに恵みを加えなければならない。こうして寄せ算で働くとき、神は彼のために掛け算で働いて下さる。われわれの救い主は、悔いる心を持つ者の祈りを聞き、それに答える準備がいつでもできておられる。そして恵みと平安が、忠実な者たちの上に増し加えられるのである。主は、彼らを悩ます悪との戦いに必要な祝福を、喜んで彼らに与えて下さる。(患難から栄光へ下巻 229)

ヨハネとユダは、キリストの弟子だと告白した人たちを代表している。この二人の弟子は、同じようにキリストの模範を学び、それに従う機会を持っていた。二人ともイエスと密接に交わり、主の教えを聞く特権を与えられていた。二人はそれぞれ性格に大きな欠点があったがまた、二人とも、性格を変える聖なる恵みに接することができた。しかし、一人が謙遜にイエスのことを学んでいる間に、もう一人はみことばを実行せずただ聞くだけであった。一人が日ごとに自己に死に、罪に勝利して、真理によってきよめられていたのに、他方は、恵みの変える力を拒み、利己的な願いにふけり、サタンのとりにされた。

ヨハネの生涯に見られるような性格の変化は、常にキリストと交わっていたために与えられたものである。人にはそれぞれ性格に目立つ欠点があるかもしれない。しかしその人が、キリストの真の弟子になると、神の恵みの力により変えられ、きよめられるのである。彼は主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、崇拜する主と同じ姿に変えられていく。……

彼らが神のかたち似たものとされ、み霊によって支配されるときはじめて、神は信仰を告白する者たちによってあがめられることができる。そして後、救い主の証人として彼らは、彼らのためになされた神の恵みを知らせることができる。(患難から栄光へ下巻 261～263)

最も希望のない者のために

「最後に言う。あなたがたは皆、心をひとつにし、同情し合い、兄弟愛をもち、あわれみ深くあり、謙虚でありなさい。」(ペテロ第一 3:8)

キリストはすべての人の手の届くところに救いをもたらすために来られた。カルバリーの十字架上で、このお方は失われた世界のための無限の贖い代を支払われた。……このお方の使命は罪人、あらゆる階級、あらゆる言葉や国家の罪人のためであった。……最も過ちに陥っている者、最も罪深い者も見見過ごされなかった。このお方の働きは特別に、ご自分もたらすために来られた救いを最も必要としている人々のためであった。彼らに改革の必要が大きければ大きいほど、このお方の関心は深く、その同情は大きく、このお方の働きは熱心であった。このお方の愛の大きな心は奥底から、最も希望のない状態の人々や、最もご自分の変化させる恵みを必要としている人々のためにかき動かされた。……

わたしたちはキリストが過ちに陥っている人を救うために労されたときの精神を培うべきである。彼らはわたしたちと同様に、キリストにとって愛しい存在である。彼らも等しくキリストの恵みの勝利の記念となり、王国の相続人となることができる。しかし、彼らは狡猾な敵のわなにさらされており、危険と汚れにさらされているため、キリストの救いの恵みがなければ、滅びは確実である。わたしたちが事態を正しい光のうちに見るならば、わたしたちの助けや祈りや同情や愛を必要としている人々に近づくことができるように、どれほどのわたしたちの熱心さが呼び覚まされ、わたしたちの真剣で自己犠牲的な努力は増し加えられることであろう！……もしわたしたちの心がキリストの恵みによって和らげられ、征服され、神のいつくしみ深さと愛の感覚に暖められるならば、愛と同情と優しさが自然に他の人々へあふれ出るのである。(教会への証 5 巻 603-605)

憐れみ深い愛の大きな心に近く来て、神聖な同情の潮流が、あなたの心に流れ込み、あなたから他の人の心に流れ込むようにしなさい。イエスがご自身の尊い命のうちを表わしてこられた優しさと憐れみが、わたしたちにとってどのように人類同胞、特にキリストのうちにあるわたしたちの兄弟である人々を扱うべきかについての模範となるようにしなさい。……決して、どんなことがあっても、心なく、冷たく、同情心のない、口やかましい者となってはならない。励まし、希望を吹き込む一言をいう機会を、決して一つも逃してはならない。わたしたちは何か重荷を軽くするためのわたしたちの優しい親切の言葉やキリストのような努力が、どれほど遠くまで及ぶかわからないのである。過ちに陥っている人を、柔和といつくしみ深さと優しい愛の精神の方法以上に回復しうるものはない。(同上 612, 613)

キリストの性質にあずかる者

「また、それらのものによって、尊く、大いなる約束が、わたしたちに与えられている。それは、あなたがたが、世にある欲のために滅びることを免れ、神の性質にあずかる者となるためである。」(ペテロ第二 1:4)

キリストの日常生活において、なんと品性の美しさが輝き出ていたことであろう!このお方がわたしたちの型となられるべきである。神聖なかたちにかたどって品性を形成することにおいて、なされるべき大いなる働きがある。キリストの恵みは存在全体を形成しなければならない。そしてその勝利は、全天が神の子らのふるまいのうちに、習慣的な優しい感情、キリストのような愛、聖なる行いを目撃するまで完全なものとはならないのである。(彼を知るために 200)

人は各々、自分自身で経験を得なければならない。だれも他の人の経験や実践に救いを頼ることはできない。わたしたちは世に適切にキリストを表すために、各自このお方を知る者とならなければならない。「いのちと信心とにかかわるすべてのことは、主イエスの神聖な力によって、わたしたちに与えられている。それは、ご自身の栄光と徳とによって、わたしたちを召されたかたを知る知識によるのである」(ペテロ第二 1:3)。わたしたちのうち、だれ一人として、自分たちの性急な気質や、ゆがんだ品性や、利己心、妬み、嫉妬、また魂や体あるいは霊のいかなる不純に対しても、言い訳をする必要がない。……

わたしたちはキリストから学ばなければならない。このお方が、ご自分の贖われた人々にとってどのようなお方であるかを知らなければならない。わたしたちはこのお方を信じる信仰を通して神性にあずかり、それによって欲のために世にある滅びから免れることがわたしたちの特権であることを悟らなければならない。そのとき、わたしたちはあらゆる罪から、またあらゆる品性の欠点から清められる。わたしたちは一つとして罪深い傾向を持ち続ける必要はない。……

わたしたちが神性にあずかるとき、先天的また後天的な悪への傾向は、品性から切り離され、わたしたちは善への生きた力とされる。神聖な教師から絶えず学び、このお方の性質に日々あずかることによって、わたしたちはサタンの誘惑に勝利することにおいて神と協力する。キリストが神と一つであられるように、人がキリストと一つになるように、神が働かれ、人が働く。そのとき、わたしたちは天国でキリストと共に座する。思いはイエスのうちに平安と確証をもって休まる。……このお方の中には、無尽蔵の満ちみちた徳がある。……

神はわたしたちにすべての手段、すべての恵みを与えて下さった。このお方は天の宝の富を提供なさった。そして、絶えずこの資源から引き出すことがわたしたちの特権である。(ビュー・アード・ヘルド 1900年4月24日)

品性をかたちづくる

「従順な子供として、無知であった時代の欲情に従わず、むしろ、あなたがたを召して下さった聖なるかたにならって、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なる者となりなさい。」(ペテロ第一 1:14, 15)

キリストの恵みの変化させる力は、神の奉仕に自らを捧げた人のかたちづくる。贖い主の霊を吹き込まれて、彼は自己を否定する準備ができており、十字架を取りあげ、主人のためにどのような犠牲でも払う準備ができています。もはや彼は滅びつつある自分のまわりの魂に無関心ではいられない。彼は自己奉仕に超越して引き上げられる。彼はキリストのうちに新しく創造されたのであり、彼の生涯に自己奉仕の場所はない。彼は自分の存在のすべての部分が、自分を罪の奴隷から贖って下さったキリストに属していること、また自分の将来の一瞬一瞬が、神のひとり子の尊い血潮をもって買われたものであることを悟る。(教会への証 7巻 9, 10)

キリストはわたしたちの型であられ、キリストに従う人々は闇のうちを歩くことがない。なぜなら、彼らは自分自身の楽しみを求めないからである。神に栄光を帰すことが彼らの生涯の絶え間ない目的である。キリストは世に神のご品性を表された。主イエスは万事をよくなさったと人々が認めざるをえないように生活を律された。世の贖い主は、世の光であられた。なぜなら、このお方のご品性には欠点がなかったからである。このお方は神のひとり子であり、天地の万物の相続人であられたにもかかわらず、怠惰や自己放縱の実例を残されることはなかった。……

キリストは決してだれにもへつらわれることがなかった。このお方は決して欺くことも搾取することも、また恩寵や賞賛を得るためにまっすぐな正直の道を変換することもなさらなかった。このお方はいつも真理を表明された。親切の法則がこのお方の唇にあり、このお方の口には偽りがなかった。人間の代理人は、自分の生涯をキリストの生涯と比較しなさい。そして、イエスを個人的な救い主とする人々に、このお方が与えて下さる恵みを通して、義の標準に到達しなさい。……キリストに従う人々は、完全な自由の律法を絶えず眺め、キリストによって自分たちに与えられる恵みを通して、品性を神聖な要求に従ってかたちづくるのである。(彼を知るために 156)

愛によって表される

「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」(ヨハネ 13:34, 35)

信徒たちの心を一致のうちに、すなわち交わりと愛の絆のうちに、またキリストと御父との一つであることのうちに結ぶ愛の黄金の絆は、つながりを完全にし、世に対して論駁できないキリスト教の力について証を担う。……

サタンは、品性を変えることにおいて恵みに何ができるかについて、世に対する証人となるこのような証の力を理解している。……彼は真理を信じる人々の心と心を結びつけ、彼らを御父と御子との緊密なつながりのうちに結びつけるこの黄金の鎖を断ち切るために、考えつく限りの策略を実践する。(彼を知るために 173)

キリストのやさしい、心をとらえる愛を経験したことのない人たちは、ほかの人々をいのちの泉に導くことはできない。心のうちにあるキリストの愛は、強く迫る力であり、それは会話をとおし、やさしい同情に満ちた精神をとおし、彼らが交わっている人々の生活の向上をとおしてキリストをあらわすよう彼らを導く。……

神の恵みによって新たにされた心にとって、愛は行動の主原則である。愛は性質を修正し、衝動を支配し、感情を制御し、愛情を高める。心に抱かれたこの愛は、人生を麗しくし、清澄にする感化を周囲に与える。(患難から栄光へ下巻 254, 255)

神を最高に愛し、隣人を自分自身のように愛する人は、自分が世に対して、天使たちに対して、また人々に対して見世物となっていることを絶えず自覚して働く。神のみ旨を自分の意志として、彼は自分の生涯のうちに、キリストの恵みの変化させる力を表す。生涯のあらゆる状況において、彼はキリストの模範を自分の案内役とする。

すべて真の自己犠牲的な神のための働き人は、よろこんで他の人のために費やし、費やされる。……助けを必要としているところで助けるための熱心で思慮深い努力によって、真のクリスチャンは自分の神への愛と同胞への愛を示す。彼は奉仕において命を失うかもしれない。しかし、キリストがご自分の宝石をご自身に集めるに來られるとき、彼はそれを再び見出すのである。(ヘレケッド・メッセジ 1巻 86)

命を与える雰囲気

「しかるに、神は感謝すべきかな。神はいつもわたしたちをキリストの凱旋に伴い行き、わたしたちをとおしてキリストを知る知識のかおりを、至る所に放って下さるのである。わたしたちは、救われる者にとっても滅びる者にとっても、神に対するキリストのかおりである。」(コリント第二 2:14, 15)

神は、み子という比類なき賜物を与えて、ちょうど空気が地球の回りを取りまいているように、恵みの雰囲気ですべての世界をつつまれた。このいのちを与える空気を吸うことを選ぶ者は、だれでも生きることができ、キリストにある全き人となることのできるのである。(キリストへの道 90)

いかなる美術品であっても、キリストの代表者である人々のうちに現わされるべき性質と品性の美には匹敵できない。信ずる者を生命から生命に至るかおりとし、そのわざに神の祝福をもたらすものは、彼の魂をつつむ恵みの雰囲気である。(キリストの実物教訓 277)

品性の変化が、キリストの愛の内住していることについて世に対する証となるのである。主はご自分の民が、贖いの恵みの力は欠点のある品性に働き、均整のとれた実り豊かな品性に発達させることができることを示すよう期待しておられる。……

神の恵みが内に統治するとき、魂は信仰と勇気とキリストのような愛の雰囲気、すなわちそれを吸い込むすべての人の霊的な命に活気を与える雰囲気に取り囲まれる。……心のへりくだっている人々を、主は按手を受けた牧師の近づくことのできない魂に手を差し伸べるためにお用いになる。彼らはキリストの救いの恵みを表す言葉を語るように動かされる。

そして、他の人々を祝福するとき、彼ら自身が祝福される。神はわたしたちに恵みを分け与える機会を与えて下さる。それはこのお方が増し加わった恵みをもってわたしたちを再び満たすためである。希望と信仰は、神のための代理者が神の備えて下さったタラントと手段をもって働くときに強くなる。彼には自分と共に働く神聖な代理者がある。(教会への証 6 卷 43, 44)

聖なる雰囲気が、真理を通して聖化される人々から世に出ていくべきである。地は恵みの雰囲気ですべての地を取り囲まれるべきである。聖霊が人の心に働きかけ、神の事柄を取りあげて、それらの人々に示さなければならない。(教会への証 9 卷 40)

わたしたちの要求を待っている

「求めなさい、そうすれば、与えられるであろう。そして、あなたがたの喜びが満ちあふれるであろう。」(ヨハネ 16:24)

祈りは、罪との戦いとクリスチャン品性の発達における成功の手段として、天が定めたものである。信仰の祈りにこたえて与えられる神の力は、願い求めるすべてのことを嘆願者の心の中に成就する。われわれは、罪のゆるしを、聖霊を、キリストのような性質を、主の働きをなすための知恵と力を、また主が約束された賜物を、求めることができる。そして、それらは「与えられる」と約束されているのである。(患難から栄光へ下巻 267)

イエスはわたしたちの助け主であられる。このお方のうちに、またこのお方を通して、わたしたちは勝利しなければならない。……キリストの恵みは、あなたがそれを要求するのを待っている。このお方はあなたがご自分に求めるならば、必要としているときに恵みと力を与えて下さる。……キリストの宗教は、すべてのきよめられていない感情をたばねて抑制し、精力と自制と勤勉さを刺激し、家庭の中の日常生活の事柄においてさえ、わたしたちが節約と機転と自己否定を学び、また不自由にもつぶやかずに耐えるように導く。心のうちにあるキリストの霊は品性に表され、高尚な資質と力を発達させる。「わたしの恵みは……十分である」とキリストは言われる(コリント第二 12:9)。(わたしたちの高い召し 29)

イエスとあなたの魂との交わりをつねに保つことができるよう全力を尽しなさい。……家族とともに祈らねばならない。わけても、密室の祈りをおろそかにしてはならない。これは、魂のいのちだからである。祈りをおろそかにしていながら、魂の健全を願うことはできない。家族の祈り、また、公の祈りだけでは不十分である。人のいないところに退いて、心を探られる神のみ前に心をすっかり開かねばならない。密室の祈りは、祈りを聞いたもう神にのみ聞かれるべきで、好奇心にかられて人が聞いたりすべきものではない。密室の祈りでは、心は周囲の影響を受けたり、また、興奮したりすることもない。……。穏やかでしかも単純な信仰によって、魂は神との交わりを保ち、神から光を受けて、悪魔との戦いに立ち得るために心は強められささえられるのである。……

密室で祈りなさい。毎日の仕事をするときにも、しばしば心を神に向けなければならない。エノクはこのように神とともに歩んだのである。黙祷は、恵みのみ座の前に尊いかおりのように上っていく。こうして、神に心をゆだねた人に、悪魔は勝つことはできないのである。(キリストへの道 134～136)

訓練し、精錬する

「見よ、神に戒められる人はさいわいだ。それゆえ全能者の懲らしめを軽んじてはならない。」(ヨブ 5:17)

試練や困難は神がお選びになった鍛練の手段であって、神が定められた成功の条件である。……神は、正しく指導すれば神の働きを進展させるのに用いることができる能力や感受性を持っている人々がいることを知っておられ、摂理によってこうした人をいろいろ異なる地位や各種の境遇に導かれるのであるが、それはその人自身知らなかった自己の欠陥を発見するためである。神はこうした欠陥を改める機会を与え、神の働きに適する者となる機会を与えられる。

わたしたちが試練に耐えるように召されている事実は、主イエスがわたしたちの中に発達させようとお望みになっている、尊いものがあることを認められていることを示している。もし、わたしたちの中に神のみ名の誉となるものが一つもないとわかれば、わたしたちをりっぱなものにする時間を費されないのであろう。神は無価値な石を神の炉の中に投げ入れられることはない。神が精錬なさるのは価値のある鉱石である。かじ屋は金属の品質を知るために鉄や鋼を火の中に投入する。神はご自分がお選びになった者が悩みの炉の中に投げ入れられるのを許し、彼らがどんな性質を持ち、神の働きのために適当かどうかをためされるのである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 454, 455)

わたしたちは何か自分自身の標準にしたがって、自分自身の心を調べ、自分自身の行動を合わせなければならないように見えるかもしれないが、そうではない。これは改革するよりも改悪してしまう。働きは心から始められなければならない。そうすれば、精神、言葉、顔の表情、生活の行為は、変化があったことを表すようになる。キリストが豊かに降り注いで下さっている恵みを通してこのお方を知ることによって、わたしたちは変えられていく。……謙遜のうちに、わたしたちは品性のすべての短所と欠点を正すようになる。なぜなら、キリストが心のうちに宿っておられ、わたしたちは上にある天の家族にふさわしいものとされるからである。(神のむすこ娘たち 117)

クリスチャンは自分の罪深い習慣や品性の欠点を持ち続けるべきではない。……あなたの欠点の性質がどのようなものであっても、主の御霊はあなたがそれらを見分けられるようにする。そしてそれらを克服できるようにあなたに恵みが与えられる。(同上 349)

絶えず上に向かって

「このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのだから、彼にあって歩きなさい。」(コロサイ 2:6)

これは、あなたがキリストの生涯を研究すべきことを意味している。永遠の利益は、現世の地上の探求よりも重要なのであるから、現世的な学問を研究するよりもはるかにもっと熱心にそれを研究すべきである。もしあなたが永遠の事柄の価値と神聖さを正しく評価しているならば、あなたは自分の最も鋭敏な思想と、最高の精力を、自分の永遠の幸福に関わる問題を解決するためにつき込むであろう。なぜなら、他の関心ごととはみな、これに比べれば無意味なものとして沈んでしまうからである。

あなたには、型となるお方、キリスト・イエスがおられる。このお方のみ足の跡に歩みなさい。(クリスチャン教育の基礎 303)

「あなたがたの信仰に徳を加え」(ペテロ第二 1:5)。退歩している人に与えられている約束はない。使徒は、その証の中で、信徒たちが恵みと聖潔において進歩するために奮起させようとしている。彼らはすでに真理に生きていと公言しており、尊い信仰の知識を持っており、神性にあずかる者とされている。しかし、もし彼らがそこで止まるならば、彼らは受けた恵みを失ってしまう。……

真理は心と生活を形作る活動的な働く原則であり、それゆえ継続的に向上した動きがある。……一歩上っていくごとに、意志は新しい行動の原動力を得ていく。道徳的な基調は、ますますキリストの思いと品性に似たものになっていく。進歩するクリスチャンには、人知を越えた恵みと愛がある。なぜなら、キリストのご品性についての神聖な洞察力が、彼の愛情を深くとらえているからである。はしごの上に表れている主の栄光は、ただ向上し上っていく人、すなわちキリストが表されるもっと高く、もっと高尚な目的に、つねに惹かれている人にしか正しく評価することはできない。(わたしたちの高い召し 68)

天へ上っていく歩みは、一步一步進めていかなければならない。一歩前進すると、わたしたちは次の一歩のために強められる。神の恵みが人の心を変化させる力は、人々があまりにも怠けて必要な努力を払おうとしないために、ほとんど理解されていない。……

もし人間の努力が、あらゆる知恵と力の源であられる神の恵みと結合するならば、わたしたちの手の届くところにある高く、気高い偉業は、人間の想像力を越えている。そしてその向こうに永遠の重い栄光がある。(教会への証 4 巻 444～446)

十分な恵み

「ところが、主が言われた、『わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる。』」（コリント第二 12:9）

「たとい、自分では小さいと思っても、あなたはイスラエルの諸部族の長ではありませんか」（サムエル記上 15:17）。ここにサムエルは、なぜサウルがイスラエルの王座に任命されたかその理由を指し示している。彼は自分自身の能力について謙遜な意見を持っており、喜んで教えを受けたいと思っていた。神聖な選択が彼の上へ下ったとき、彼は知識と経験に欠け、また多くの良い資質と共に、深刻な品性の欠点を持っていた。……しかし、もし彼が謙遜であり続け、絶えず神聖な知恵に導かれることを求めるならば、……彼は自分の高い地位の義務を成功と誉れを持って果たすことができるはずであった。神聖な恵みの感化の下で、すべての良い資質は力を得ていき、その一方悪の特質は、着実にその力を失うはずであった。

これは主が自らをご自分に捧げるすべての人のためになそうとしておられる働きである。……教えを受けるすべての人に、このお方は恵みと知恵を与えて下さる。……このお方は彼らにその品性の欠点を表し、ご自分の助けを求めるすべての人に、自分たちの過ちを正す力を与えようとしておられる。人からみつく罪が何であろうと、どのような苦々しく低俗な感情が支配権を得るために奮闘していようと、もしイスラエルの助け主のみ名と力のうちに、それらに対して見張り戦うならば、彼らは勝利することができる。神の子らは罪に対する鋭い感覚を培うべきである。……サタンの最も成功している策略の一つは、小さな罪を犯させるように人々を導き、小さな放縦、はつきり述べられている神のご要求からの小さな逸脱の危険性に対して思いを盲目にすることである。何か大きな不法に対しては恐怖にしり込みする多くの人々が、小さなことにおける罪を大したことではないものとして見るように導かれる。しかし、これらの小さな罪が魂における信心の命を食いつくすのである。正しい道からそれた道に踏み入れる足は、ついには死に至る広い道へ向かう。（SDA パイブル・コメント [E.G. ホット・コメント] 2 巻 1016, 1017）

神がわたしたちをおいて下さった立場がどのようなものであろうと、わたしたちの責任や危険がどのようなものであろうと、このお方が自ら熱心な探求者に必要な恵みを与えると誓われたことを覚えているべきである。自分たちの地位に不十分であると感じながらも、神が自分たちにお命じになるがゆえに、そのお方の力と知恵により頼んで、それを受け入れる人々は、力から力へと進んで行く。（同上 1017）

恩恵期間があるうちに

「不義な者はさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うままにさせよ。」(黙示録 22:11)

人が享受するあらゆる良いものは、神の憐れみゆえにもたらされるのである。このお方は大いなる惜しみない与え主であられる。このお方の愛は、人のためになされた豊かな備えのうちに、すべての人に表されている。このお方はわたしたちが天の宮廷のために品性を形作るための恩恵期間を与えて下さった。(教会への証 6 巻 385)

わたしたちは疑いの余地なく、キリストがまもなく来られることを信じている。これはわたしたちにとっておとぎ話ではない。それは現実である。……このお方が来られるとき、このお方は、わたしたちをその罪から清めるのでもなければ、わたしたちからその品性における欠点を取り除くのでもない。あるいは、わたしたちを気質や性質の欠陥を癒すためでもない。もしわたしたちのためになされるとすれば、この働きはこの時の前に成し遂げられていなければならない。主が来られるとき、聖なる者は聖なるままである。自分たちの体と霊を聖潔のうちに、聖化と誉れのうちに守ってきた者たちは、そのとき仕上げの不死の一触れを受ける。しかし、不正で、聖化されず、汚れた者たちは、永遠にそのままである。そのときに、彼らの欠点を取り除き、彼らに聖なる品性を与えるためになされる働きは何もない。精錬するお方は、そのときにご自分の精錬の工程を進めたり、彼らの罪や彼らの墮落を取り除くために座られることはない。これはみなこれらの恩恵期間のうちになされるべきことである。この働きがわたしたちのために成し遂げられるべきなのは今である。(教会への証 2 巻 355)

恩恵の期間の間は、神の恵みがすべての人々に与えられている。しかし、もし人々がその機会を自己満足のためにのがしてしまうならば、彼らは自分を永遠のいのちから切り離してしまうのである。その後にはもはや恩恵の期間は与えられないのである。自分の選択によって、彼らは自分たちと神との間に越えることのできない淵(ふち)をつくってしまうのである。(キリストの実物教訓 235)

多くの人々は、キリストの再臨の時に品性を変えられると思って自らをあざむいているが、キリストが現われたもうときには、心の改変は行なわれない。わたしたちの品性の欠点は、この地上で悔い改めなければならない。そしてキリストの恵みによって恩恵期間にそれらに勝利しなければならない。この地上は、天の家族の一員となる準備をする所である。(アドベント・ホーム 357, 358)

恩恵期間はほとんど終わろうとしている。……準備しなさい!準備しなさい!昼の間に働きなさい。夜が来るとだれも働けなくなるからである。(教会への証 2 巻 401)

報い

「見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう。」(黙示録 22:12)

主はご自分の神聖な取り決めのうちに、ご自分の価しない者への恩寵を通して、良い行いが報いられるように定められた。わたしたちはただキリストの功績を通してのみ受け入れられる。そしてわたしたちが行なう憐れみの行為、愛の行為は、信仰の実である。そしてそれらはわたしたちにとって祝福となる。なぜなら、人は自分のわざに従って報いられるからである。わたしたちの良い行いを神に受け入れられるものとするのは、キリストの功績の香である。そして、このお方がわたしたちに報いて下さる行いを、わたしたちができるようにするのは恵みである。わたしたちの行いは、そのうちにもそれ自体にも何の功績もない。……わたしたちは、神に感謝される値打はない。ただ自分たちのなすべき義務を果たしたにすぎず、またわたしたちの行いは、自分自身の罪深い性質の力では果たすことができなかったのである。(わたしたちの高い召し 122)

わたしたちは……自分たちのすべての行いにキリストの光と恵みを持ちこむべきである。わたしたちはキリストをしっかりとかみ、このお方の変化させる力が自分たちのうちに表されることがわかるまで、しっかりとこのお方をつかみ続けている必要がある。わたしたちは神聖な品性を反映させたいのであれば、キリストを信じる信仰を持たなければならない。……生活を変える神のみ言葉とキリストの力を信じる信仰は、信じる者がこのお方のわざを行うことができるようにする。(教会への証 9 卷 279)

キリストは、その僕たちに、「自分の財産」、つまり、神のために用いるべき何物かをお与えになる。……天の住居の中に、わたしたちの場所が確実に用意されているのと同じように、わたしたちがこの地上で神のために働くべき場所が、定められているのである。……

キリストはご自身の血と苦悩という代価をわたしたちのために支払われた。そして、わたしたちが、喜んで奉仕することを待っておられるのである。主は、わたしたちがどのように働き、またどのような精神で働くべきであるかの実例を示すために、この世界にこられた。主は、どうすれば神の働きを前進させ、神のみ名の栄えになるかを、わたしたちが研究することを望んでおられる。(キリストの実物教訓 301～305)

聖霊の働きによって魂が清められるということは、キリストの性質を人間のなかに植えつけることである。福音を信じることは、生活の中にキリストが宿ること―すなわち、生きた活動的な原則が宿ることである。それは、品性によい行ないとなってあらわれるキリストの恵みである。(同上 361)

全存在のために

「どうか、平和の神ご自身が、あなたがたを全きよめて下さるように。また、あなたがたの霊と心とからだを完全に守って、わたしたちの主イエス・キリストの来臨のときに、責められるところのない者にして下さるように。」(テサロニケ第一 5:23)

聖書に示されている清めとは、全存在一霊と魂と体一を含むものである。……キリスト者は、自分たちのからだを、「神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物として」ささげるように命じられている。(ローマ 12:1) そうするためには、彼らのすべての能力を、なしうる最上の状態に保たなければならない。肉体的、または知的能力を弱める習慣はすべて、人間を創造主に奉仕するのにふさわしくない者にする。……「心をつくして、主なるあなたの神を愛せよ」とキリストは言われた(マタイ 22:37)。心をつくして神を愛する者は、その生涯をもって最上の奉仕をすることを望み、神のみこころを行なう能力を増進させる法則に、心身のすべての能力を調和させようと常に努力する。彼らは、食欲や情欲をほしいままにして、彼らの天の父にささげる供え物を弱めたり汚したりしないのである。(各時代の大争闘下巻 202, 203)

神は、ご自分が思いと魂と体と霊に対して一わたしたちの所有しているすべてのものに対して一権利を持っておられることを、わたしたちが悟るよう望んでおられる。わたしたちは創造によって、また贖いによってこのお方のものである。わたしたちの創造主として、このお方はわたしたちの奉仕全体をご自分のものとして主張なさる。わたしたちの贖い主として、このお方は権利と共に愛を一比類のない愛一を要求する権利がある。……わたしたちの体、魂、命はこのお方のものである。すなわちそれらがこのお方の無償の賜物であるばかりでなく、たえずわたしたちにご自分の恩恵を供給し、わたしたちの機能を用いる力を与えて下さっているからである。……

そうであれば、わたしたちはキリストが贖うために死なれたものを、このお方にお捧げしないであろうか。もしあなたがこのことをなすならば、このお方はあなたの良心を目覚めさせ、あなたの心を新たにし、あなたの愛情を聖化し、あなたの思想を純潔にし、そしてあなたのすべての力をご自分のための働きにつかせてくださる。動機の一つ一つ、思想の一つ一つが、イエス・キリストにとりこにされる。

神の子である人々は、品性においてキリストを表すようになる。彼らの働きは、神の御子の無限の優しさ、同情、愛、純潔によって香るようになる。そして思いと体が聖霊にもっと完全に明け渡されれば明け渡されるほど、このお方へのわたしたちの捧げ物の香りはますます香るのである。(SDA バイブル・コメント [E.G. 柯仲・コウト] 7 巻 909)

神のかたちに

「造り主のかたちに従って新しくされ、真の知識に至る新しき人を着たのである。」
(コロサイ 3:10)

アダムが創造主のみ手によってつくられたとき、彼の肉体と知能と霊性は、神のみかたちをそなえていた。……

罪のために、神のみかたちは傷つけられ、ほとんど消えてなくなるばかりとなった。人の体力は弱くなり、知的な能力は低下し、霊的な目はくもった。人間は死ななければならない身となった。しかし人類は、望みのない状態のままに捨ててはおかれなかった。限りない愛とあわれみによって、救いの計画がたてられ、生命の猶予があたえられたのである。人類を創造された神の御目的が実現されるように、人の中に創造主のみかたちを回復し、人を創造当初の完全な姿にもどし、知、徳、体の発達を促すこと、これが偉大な贖いの働きとなるべきであった。(教育4, 5)

神の道徳的なかたちがアダムの罪によってほとんど消されてしまったが、イエスの功績と力を通して、それは新たにされることができる。人は自分の品性において神の道徳的なかたちをもって立つことができる。なぜなら、イエスがそれを人に与えて下さったからである。(SDA パブル・コメンタリ [E.G. 初作・コメン] 6 巻 1078)

神が人を創造され、思いを造られたのはすばらしいことであった。神の栄光が、神のかたちにかたどられた人の創造と、その贖いのうちに表されるのである。一人の魂には、世界以上の価値がある。……主イエス・キリストはわたしたちの存在の創始者であり、またこのお方はわたしたちの贖いの創始者でもあられる。そして、神の王国に入るすべての人は、神のご品性の写しである品性を発達させるのである。(同上 1105)

主は、この終わりの時代のための綿密で鋭い真理によって、民を世から切り出し、彼らをご自分につけるものとして精錬しておられる。誇りと不健康な流行、誇示や賞賛を愛する心—これらはみな、もしわたしたちを創造された神のみかたちに従って知識をあらたにしていだぎたいならば、世と共に後に残さなければならない。(教会への証 3 巻 52)

人を生れ変らせる神の恵みの力によって、神のみかたちが、弟子のうちに再現され、彼は新しい人間となる。(各時代の希望中巻 141)

キリストが世に遣わすと言われ、わたしたちの品性をキリストのかたちに変えるのは、聖霊、すなわち慰め主である。そしてこれがなしとげられるとき、わたしたちは鏡のように主の栄光を映すのである。(SDA パブル・コメンタリ [E.G. 初作・コメン] 6 巻 1097)

キリストの代表者

「あなたがたはわが証人、わたしが選んだわがしもべである。」(イザヤ 43:10)

キリストがこの世界で送られた生涯は、男女がこのお方の力を通して、このお方の教えの下に送ることのできる生涯である。彼らのサタンとの闘いにおいて、彼らはこのお方がもっておられたすべての助けを得ることができる。……

キリストの生涯を送らない自称クリスチヤンの生活は、宗教に対する嘲りである。教会名簿に名が登録されているすべての人は、柔和でしとやかな霊という内なる飾りを表すことによってキリストを代表する義務の下にいる。彼らは、キリストが自分たちに残して下さった模範の通りに歩み、働く利点を知らせることによって、このお方の証人となるべきである。この時代のための真理は、それを信じる人々の生活のうちに力をもって現れ、世に与えられなければならない。信徒たちは自分たちの生活において、聖化し、高尚にする真理の力を表さなければならない。……彼らはキリストが人に与えるために死なれた恵みの力を明らかに示さなければならない。……彼らは信仰の人、勇気の人、魂を尽くした人、質問せずに神とのみ約束に信頼する人とならなければならない。……

わたしたちが担うようにと召された非常に神聖で厳粛なメッセージを持っている人々の生活に見せかけがあってはならない。世はセブンスデー・アドベンチストを見張っている。なぜなら、彼らの信仰の告白と彼らの高い標準について何がしか知っているからである。そして、その公言に見合っていない人々を見ると、世は彼らを指さして嘲るのである。

イエスを愛する人々は、自分たちの生活におけるすべてのことをこのお方のみ旨に調和させる。……神の恵みを通して、彼らは自分たちの原則の純潔さを汚さずに保つことができる。聖天使たちは彼らのすぐそばにいて、揺るがず真理を固守する彼らの態度にキリストが表される。彼らはキリストの民兵であり、真の証人として真理のために決定的な証を担っている。彼らは、人間が与え得るすべての贈り物でも、1センチとして男女を真理と正義からそらさせないようにできる霊的な力が存在することを示す。そのような人々は、どこにいようと、天から尊ばれる。なぜなら、彼らは自分たちがどのような犠牲を払うように召されても意に介さず、自分たちの生活を神のみ旨に調和させてきたからである。(教会への証 9 卷 22～24)

日々、どこでも

「すべての道で主を認めよ。」(箴言 3:6)

聖書の宗教は、好きなように着たり、脱いだりできる衣ではない。それはすべてに行き渡っている感化力であり、わたしたちがキリストのなされたようになし、このお方の歩まれたように歩む、忍耐強く自己否定的なキリストの従者になるよう導く。……

もしあなたの共感や、あなたの同情や憐れみの言葉を必要としている人がいることにあなたが気づかなかつたならば、あなたはこれらの尊い賜物を働かせなかつたとしても神のみ前に罪がない。しかし、キリストに従うすべての人は、クリスチャンの親切と愛を示す機会を見出す。そしてそうすることによって、彼はイエス・キリストの宗教を持つ者であることを立証するのである。

この宗教は、わたしたちが無情で不正な取り扱いを受ける立場に導かれても忍耐と寛容を働かせることを教える。……「悪をもって悪に報いず、悪口をもって悪口に報いず、かえって、祝福をもって報いなさい。あなたがたが召されたのは、祝福を受け継ぐためなのである」(ペテロ第一 3:9)。……キリストはののしられても、ののしりかえされなかつた。……このお方の宗教は柔和でしとやかな霊をたずさえている。……

聖書の宗教を実践するのに、絶えざる忍耐、親切、自己否定、そして自己犠牲が必要である。しかし、もし神のみ言葉がわたしたちの生活において永続的な原則となるならば、わたしたちのなすべきすべてのこと、一つ一つの言葉、一つ一つの些細な行為は、わたしたちがイエス・キリストの臣下にある者であることを表す。……もし神の言葉が心に受け入れられるならば、それは魂から自己満足と自己依存を空にする。わたしたちの生活は善への力となる。なぜなら、聖霊がわたしたちの思いを神の事柄で満たすからである。……

自分自身では、わたしたちはキリストの宗教を得ることも実践することもできない。なぜなら、わたしたちの心はよろずのものより偽るからである。しかし、イエスは……わたしたちがいかに罪から清められることができるかを示された。「わたしの恵みはあなたに対して十分である」とこのお方は言われる(コリント第二 12:9)。……わたしたちの信仰の創始者であり完成者であられるイエスを仰ぎ見つつ、わたしたちはこのお方のみ顔の光をとらえ、それを反射し、キリスト・イエスにある男女の満ちみちた高さにまで成長する。わたしたちの宗教は魅力的なものとなる。なぜなら、それは、キリストの義の香りを持つようになるからである。わたしたちは幸せになる。なぜなら、わたしたちの霊的な食物と飲み物が、わたしたちにとって、義と平安と喜びとなるからである。(ビュー・アンド・ハルト 1897年5月4日)

改革の働き

「主の道を備えよ、その道筋をまっすぐにせよ。すべての谷は埋められ、すべての山と丘とは、平らにされ、曲ったところはまっすぐに、わるい道はならされ」（ルカ 3:4, 5）

ここでヨハネによって見解が示されている改革の働き、すなわち心と思いと魂の清めは、今日キリストの信仰を持っていると公言する多くの人に必要とされている。ふけてきた悪習慣は取り除かれる必要がある。曲がった道はまっすぐにされ、荒れたところはなだらかにされる必要がある。自己評価と誇りの山や丘は低くされる必要がある。「悔改めにふさわしい実を結」ぶ必要がある（マタイ 3:8）。この働きが信じる神の民の経験のうちになされる時、「人はみな神の救を見るであろう」（ルカ 3:6）。……

わたしたちの名が教会名簿に載っているという事実が、天の王国へ入る資格を、わたしたちに得させるのではない。あなたは奉仕とクリスチャン品性の発達のための自分の機会を用いてきたのか、と神はお尋ねになる。あなたはあなたの主の財産をもって忠実に商売をしてきたであろうか。あなたに関わる神のみ旨を知りながら、あなたはそのみ旨に従ってきたであろうか。あなたは助けと励ましを必要としている人々の益を図り、祝福するよう努めてきたであろうか。……

この世の人間の中で、何らかの種類の実、すなわち善か悪かの実を結ばない人はいない。そしてキリストはすべての魂が最も尊い実を結ぶことを可能として下さった。神のご要求への従順、キリストのみ旨に服することによって、生涯のうちに、平安な義の実を結ぶようになる。この世の住民は、神の家族にいとしいものである。……このお方は天が与え得る最も富んだ賜物を与えて下さった。それは男女がその反逆から神の律法へと立ちかえり、彼らの心と生活に天の原則を受け入れることができるためである。もし人が賜物であるお方を認め、このお方の犠牲を受け入れるなら、彼らの不法はゆるされる。そして彼らの生涯のうちに聖潔という尊い実を結ぶのを助けるために、神の恵みが与えられるのである。

「すべて良い木は良い実を結」ぶ。わたしたちには、世に表すべき純粋な原則、聖なる大志、高尚な熱望がある。これらはわたしたちを他のすべての民と区別し、わたしたちを区別された国民、特別な民とする。（レヴィ・アンド・ハルド 1909年4月22日）

天のために準備する

「だれでも人の前でわたしを受けいれる者を、人の子も神の使たちの前で受けいれるであろう。」(ルカ 12:8)

神が、哀れで罪深く悲嘆にくれている人類を取りあげて、恵みによって神の相続人、しかもイエスと共同の相続人にすることがおできになるとは、わたしたちが理解するにはあまりにも大きすぎる思想である。……キリストはご自分が不法者の罪を引き受け、彼にご自分の義を着せて下さる。そして、ご自分の変化させる恵みによって、彼を、天使たちの仲間に加わり、神と交わることのできる者として下さる。(ユス・インストラクター 1893年1月19日)

人を洗練する神の恵みの感化力は、人の生まれつきの性質を変える。天国は世俗的な心を持つ者には好ましいところではない。彼らの生来の、きよめられていない心は、純潔で神聖な場所になんの魅力も感じないであろう。また、たとえ彼らが天国にはいれたとしても、彼らに合ったものは何も見いだせないであろう。墮落した人間が天国に入るにふさわしくなり、純潔で聖なる天使たちとの交わりを楽しむためには、まず、生まれながらの心を支配している性癖が、キリストの恵みによって和らげられねばならない。人が罪に死んで、キリストにある新しい命に生き返るとき、神の愛がその心を満たす。彼の知力はきよめられる。彼はよろこびと知識の尽きぬ泉から飲み、永遠の日の光が彼の道を照らす。いのちの光であられるかたが、絶えず彼と共におられるからである。(患難から栄光へ上巻 294, 295)

神は、すべての家族に、すべての教会に、すべての施設に、天の計画が実行され、天の神聖な秩序と調和が行き渡ることを望んでおられる。この愛が社会にパン種のように働くなら、わたしたちはクリスチャンの洗練と礼儀のうちに、またキリストの血で買われたものに対するクリスチャンの愛のうちに、高尚な原則の働きの完成を見るようになる。霊的な変化がわたしたちのすべての家族のうちに、施設のうちに、教会のうちに見られるようになる。この変化が起こるとき、これらの代理者たちは神が天の光を世に与える器となり、こうして神聖な規律と訓練を通して、男女を天の社会にふさわしいものとするのである。

イエスはご自分の愛と恵みによって、自らを祝福の住まいのために準備している人々のために、住まいを用意しに行かれた。(教会への証 8巻 140)

天と家郷を慕う

「わが魂は絶えいるばかりに主の大庭を慕い、わが心とわが身は生ける神にむかって喜び歌います。」(詩篇 84:2)

ああ、来るべき世界の大きい利益が正しく評価されるならば!なぜ人々は神の御子によってこれほどの代価をもって買われたにもかかわらず、魂の救いについて、これほど無関心なのであろうか。

人の心は聖霊の住まいとなることができる。人知を越えたキリストの平安があなたの魂のうちに宿り、このお方の恵みの変化させる力があなたの生活のうちに働き、あなたを栄光の宮にふさわしいものとすることができる。しかし、もし脳と神経と筋肉がみな自己の奉仕のために用いられるならば、あなたは自分の生活の中で神と天を第一に考えているのではない。……

もし目がわき目をふらず、天に向けられているならば、天の光が魂を満たし、地上の事柄は無意味で魅力のないものに見えてくる。心の目的が変えられ、イエスの訓告に注意が払われるようになる。……あなたの思想は、永遠の大きい報いに留まる。あなたのすべての計画は、将来、すなわち不死の命に関連して立てられるようになる。聖書の宗教が、あなたの日常生活に織り込まれるようになる。(ビュー・アツド・ハルト 1888年1月24日)

真の宗教をもっていると公言する人が、天への道を指し示すために神より与えられた案内書を悲しいほどなおざりにしている。彼らは聖書を読むかもしれないが、単に神の言葉を人間の筆によってたどられた言葉を読むように読むならば、表面的な知識を与えるにすぎない。……

もしわたしたちがキリストの宗教を、神のみ言葉を食することによって受け入れられないならば、神の都に入る資格を得ることはない。地上の食物で生き、わたしたちの嗜好が世の事柄を愛するように教育されるなら、天の宮のためにふさわしい者とはならない。わたしたちは天をめぐっている純潔で天来の潮流の良さを味わうことができない。御使たちの歌や彼らのたて琴の調べはわたしたちを満足させることがない。天の科学はわたしたちの思いにとってなぞとなる。わたしたちはキリストの義に飢え渇く必要がある。このお方の恵みの変化させる感化力によってかたどられ、かたちづくられて、天使たちの社会にふさわしい者とされる必要がある。(同上 1897年5月4日)

天を我が家のように感じるためには、わたしたちはここで自分の心のうちに天国をいだいていなければならない。(教会への証 4巻 442)

名はなんと言いますか』。彼は答えた、『ヤコブです』。その人は言った、『あなたはもはや名をヤコブと言わず、イスラエルと言いなさい。あなたが神と人との、力を争って勝ったからです』。ヤコブは尋ねて言った、『どうかわたしにあなたの名を知らせてください』。するとその人は、『なぜあなたはわたしの名をきくのですか』と言ったが、その所で彼を祝福した。そこでヤコブはその所の名をペニエルと名づけて言った、『わたしは顔と顔をあわせて神を見たが、なお生きている』。こうして彼がペニエルを過ぎる時、日は彼の上へのぼったが、彼はそのもののゆえに歩くのが不自由になっていた」（創世記 32:1～31）。

預言の霊は終りの時に生存する神の民の経験を非常に適切に描写しています。ヤコブはこの出来事の前にすでに悔い改め、彼の罪はすべてゆるされました。しかし、ヤコブという名が勝利者イスラエルという呼称に変えられるまでは、「ペニエル」の経験が必要でした。このように最後の時代の残りの子らも、「ペニエル」、もしくは「神と対面する経験」すなわち、「仲保者なしに神のみ前に生きる経験」が必要です。注意して次の証をお読み下さい。

「ヤコブの格闘と苦悩の夜の経験は、神の民が、キリスト再臨の直前に経験しなければならぬ試練をあらわしている。…ヤコブがエサウの手から救い出されることを一晚中格闘したように、義人は彼らの周囲の敵からの救済を日夜祈り求める。…この苦悩の時に、ヤコブは天使を捕らえて涙ながらに訴えたのである。すると、天使は、彼の信仰を試みるために、彼の罪を思い出させて、彼から逃れようとした。しかし、ヤコブは天使を行かせなかった。彼は、神があわれみ深いことを学んでいたので、神のあわれみによりすがった。彼は、自分がすでに罪を悔い改めたことをさし示して、切に救いを願って求めた。…神の民も、悪の勢力との最後の戦いにおいて、これと同じ経験をするのである。神は、神の救出力に対する彼らの信仰、忍耐、確信を試みられる。…しかし、彼らは、神の大きなあわれみと自分たちの真心からの悔い改めを思い出す。そして、無力な罪人が悔い改めるときにキリストによって与えられる神の約束を懇願する。彼らの祈りが直ちに聞かれなくても、彼らの信仰はくじけない。彼らは、ヤコブが天使を捕えたように、神の力をしっかりと握って、『わたしを祝福してくださらないなら、あなたを去らせません』と心から言うのである」（人類のあけぼの上巻 218～220）。

わたしたちは前述の証の言葉から義人を代表するヤコブと、悪人を代表するエサウの経験を見ることが出来ます。よって、患難は神の民を代表するヤコブの経験であることがわかります。それでは、この期間（義人の悩みの時）、悪人たちは

どのような立場に置かれるでしょうか。彼らに下るのは神の怒り、すなわち七つの災いであることが次のみ言葉に記されています。

「それから、大きな声が聖所から出て、七人の御使にむかい、『さあ行って、神の激しい怒りの七つの鉢を地に傾けよ』と言うのを聞いた。」「『聖徒と預言者との血を流した者たちに、血をお飲ませになりましたが、それは当然のことです』」（黙示録 16:1、6）。

2. 患難を通過するべき理由

サタンは人の心をくらし、神を恐ろしい方のように見せかけ、人が患難と試練を受けることを喜ばれる方であると思わせませす。（キリストへの道 4～7 ページご参照下さい）。しかし、聖書のみ言葉はこのようなサタンの主張は詭弁であるということをはっきり示しています。

「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い」（イザヤ 55:8、9）。

「主は言われる、わたしがあなたがたに対していただいている計画はわたしが知っている。それは災を与えようというのではなく、平安を与えようとするものであり、あなたがたに将来を与え、希望を与えようとするものである」（エレミヤ 29:11）。

そうであるなら、なぜ、神の民（義人）は患難を通過しなければならないのでしょうか。次のみ言葉の中にひとつの実例を見出します。（ヨブ記 1:6～12、2:1～6 をご参照下さい）。「われらの兄弟らを訴える者」であるサタンは（黙示録 12:10）、この地球上に住んでいるすべての人の罪に対する正確な記録を持っています。

「サタンは、自分が彼らを誘惑して犯させた罪を正確に知っている。そして彼は、それらを神の前に大きく誇張して示し、この人々は自分と同様に神の恵みから当然除外されるべきであると主張する。主が、彼らの罪を許しながら、サタンとその使いたちを滅ぼすことは、正当ではないと彼は宣言するのである。サタンは彼らを、自分のえじきであると主張し、滅ぼすために自分の手に与えられるべきであると要求する」（各時代の争闘下巻 391）。

この「訴える者」サタンのために神はご自分の民が患難の時を通過することをゆるされるのです。しかし、次のような神の命令が下されます。

「主はサタンに言われた、『見よ、彼はあなたの手にある。ただ彼の命を助けよ』。」「主はサタンに言われた、『見よ、彼のすべての所有物をあなたの手にかま

せる。ただ彼の身に手をつけてはならない』(ヨブ記 2:6、1:12)。

「サタンが、神の民をその罪のゆえに責めるときに、主はサタンが、彼らを極限まで試みることを許される。神に対する彼らの信頼、彼らの信仰と堅実さが、激しく試みられる」(各時代の争闘下巻 391)。

「サタンの攻撃は強烈で、その欺瞞は陰険である。しかし主の目は、神の民を見ている。彼らの苦難ははなはだしく、炉の火は今にも彼らを焼きつくすかのように思われる。しかしイエスは、彼らを火で練られた金のように取り出される。彼らは、世俗的なところが取り去られて、キリストのかたちを完全に表すようになるのである」(国と指導者下巻 195)。

この時、神の民は個人的に立たなければなりません、その時の様子を聖書は次のように語っています。「たといそこにノア、ダニエル、ヨブの三人がいても、彼らはその義によって、ただ自分の命を救いうるのみであると、主なる神は言われる」(エゼキエル 14:14)。

また、彼らは仲保者なしに立つべきであることを預言の霊は次のように語っています。「イエスが聖所を去られると、暗黒が地の住民をおおう。その恐ろしい時に、義人は仲保者なしに聖なる神のみ前に生きなければならない」(各時代の争闘下巻 386)。

3. 彼ら(義人)を殺せという命令

「彼の命を助けよ、彼の身に手をつけてはならない」と言われる神のご命令にもかかわらず、サタンはついに神の民を殺そうとします。このことについて聖書と預言の霊は次のように証しています。「それから、その獣の像に息を吹き込んで、その獣の像が物を言うことさえできるようにし、また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた」(黙示録 13:15)。「聖徒たちを殺す布告が発せられた。そのために聖徒たちは、昼も夜も救いを叫び求めた。これがヤコブの悩みの時であった」(初代文集 97)。

ちょうどその時、神の民は互いに共同して団体をつくり、わびしい、人里離れた場所に生活し、神に助けを求めます。あたかも、ヤコブがひとりで立ったように(創世記 32:24)、神の民もわびしい、人里離れた山間で昔のワルデンセスの人々のように神の御守りを求め、守られるのです。

「キリスト教国のさまざまなる為政者たちが、戒めを守る者たちを抑圧するために出した法令によって、政府の保護が取り除かれ、彼らが彼らの滅亡を願う者

たちの手にまかされると、神の民は都市や村から逃れ、群れをつくって最も荒れ果てた寂しい場所に住む。多くの者は山のとりでに避難所を見つける。ピエモンテの谷間のキリスト者たちのように、彼らは地の高い所を隠れ家とし、岩のとりでを神に感謝する(イザヤ 33:16 参照)。しかし、あらゆる国のあらゆる階級の人々が、身分の高い者も低い者も、富んだ者も貧しい者も、黒人も白人も、大ぜいの者が最も不当で残酷なとらわれの身に突き落とされる。神に愛されている者たちが、疲れきった日々を送り、鎖につながれ、牢獄の格子の中に閉じ込められ、死刑の宣告を受ける。ある者は暗くいまわしい土牢の中で、餓死するままだに放置されているように見える。彼らのうめきを聞く人間の耳はなく、彼らを助けようとする人間の手はない」(各時代の争闘下巻 400、401)。

4. 神の民は罪を思い起こすことができない

この時の義人たちの心の状態を預言の霊は次のように語っています。

「神の民は、彼らを滅ぼそうとする敵に取り囲まれるが、しかし彼らの味わう苦悩は、真理のために受ける迫害を恐れてのものではない。彼らは、自分たちがすべての罪を悔い改めているかどうか、また、自分たちの中の何かのあやまちによって、『全世界に臨もうとしている試練の時に、あなたを防ぎ守ろう』という救い主の約束の成就を妨げるのではないか、ということ恐れるのである(黙示録 3:10)。もし彼らが、許しの確証を持つことができるならば、拷問も死をもいとわないであろう」(各時代の争闘下巻 392)。

サタンによる激烈な試みと攻撃にもかかわらず、彼らは次の約束のみ言葉に確信を持つのです。

「ヤコブよ、イスラエルよ、これらの事を心にとめよ。あなたはわがしもべだから。わたしはあなたを造った。あなたはわがしもべだ。イスラエルよ、わたしはあなたを忘れない。わたしはあなたのとがを雲のように吹き払い、あなたの罪を霧のように消した。わたしに立ち返れ、わたしはあなたをあがなったから」(イザヤ 44:21、22)。

「主は言われる、その日その時には、イスラエルのとがを探しても見当たらず、ユダの罪を探してもない。それはわたしが残しておく人々を、ゆるすからである」(エレミヤ 50:20)。

「もしヤコブが、欺瞞によって長子の特権を得た罪をあらかじめ悔い改めなかったならば、神は、彼の祈りを聞き、あわれみ深く彼の生命を保つことを、

なさらなかったであろう。そのように、悩みの時においても、神の民は、恐怖と苦悩にさいなまれているとき、まだ告白していない罪を思い出すならば、彼らは圧倒されてしまうことであろう。絶望が彼らの信仰を断ち切り、彼らは神に救いを求める確信が持てなくなることであろう。しかし、彼らは、自分たちが無価値なことを深く感じてはいるが、告白すべき罪を隠してはいない。彼らの罪は、前もってさばかれて、消し去られている。彼らは、罪を思い出すことができない」(各時代の大争闘下巻 393)。

神の民の罪がゆるされ、消し去られているなら、彼らの運命はすでに確定されているはずなのに、なぜサタンは続けて試み、攻撃するのでしょうか。次の言葉にその答えを見出すことができます。

「彼は、ヤコブを訴えたように、神の民に対する非難を申し立てる。彼は、世界を自分の手中にあるものと考えている。しかし神の戒めを守る小さな群れが、彼の主権に反抗しているのである。もし彼が、彼らを地上から一掃することができるなら、彼の勝利は完全なものとなる。彼は、天使が彼らを守っているのを見て、彼らの罪が許されたことを推測するが、彼らの調査が天の聖所において決定されたことは知らない」(各時代の大争闘下巻 391)。

5. 神の保護(イザヤ 26:20～21)と保証(イザヤ 33:16)

「それは主が悩みの日、その仮屋のうちにわたしを潜ませ、その幕屋の奥にわたしを隠し、岩の上にわたしを高く置かれるからである。」(詩篇 27:5)

「主はあなたを守る者、主はあなたの右の手をおおう陰である。昼は太陽があなたを撃つことなく、夜は月があなたを撃つことはない。主はあなたを守って、すべての災いを免れさせ、またあなたの命を守られる」(詩篇 121:5～7)。大患難の時に神の特別な保護とみ助けなしには、だれひとりとして安全でないことがわかります。しかしただ神のあわれみといつくしみに寄りすがる者は、だれひとり危険のうちに放任されないことが次の証を通してわかります。

「イザヤの最も美しく、慰めに満ちた預言の言葉の中で、この雲と火の柱は、悪の勢力との最後の争闘において、神が、神の民を守られることの象徴として用いられている。[イザヤ 4:5、6 引用]。」(人類のあけぼの上巻 325)。

「この試みの時に、主はご自分の民をお忘れになるだろうか。主は、洪水前の世界に刑罰がくだった時、忠実なノアをお忘れになっただろうか。平地の町を焼き尽くすために火が天からくだった時、ロトをお忘れになっただろうか。エジプト

で偶像礼拝者たちに囲まれていたヨセフをお忘れになっただろうか。イゼベルがエリヤをバアルの預言者と同じ運命にすると誓って彼を脅かした時に、主はエリヤをお忘れになっただろうか。牢獄の暗く陰うつな穴にあったエレミヤをお忘れになっただろうか。火の炉の中の三人の人物を、あるいはライオンの穴の中のダニエルを、お忘れになっただろうか」(各時代の大争闘下巻 401)。

「もし人々の目が開かれて、天の幻を見ることができたならば、力強い天使の団が、キリストの忍耐の言葉を守る者たちの回りに駐屯しているのを見るであろう。天使たちは、優しい同情の念をもって、彼らの苦悩を見つめ、彼らの祈りを聞くのである。」(各時代の大争闘下巻 406)。

「天の歩哨たちは、忠実に任務に服し、警戒を続ける。戒めを守る人々を死刑にするという全般的布告は、その日時を定めているにもかかわらず、敵たちは、ある場合には法令の時期を早めて、定められた時よりも前に彼らの命を取ろうとする。しかし、すべての忠実な人々の回りに駐屯している力強い警護者たちを通り過ぎることは、だれにもできない。なかには、町や村から逃げる途中に襲われる者たちもいる。しかし、彼らに向かってあげられた剣は、折れてわらのように力なく落ちる。また他の者たちは、軍人の姿をした天使たちによって守られる」(各時代の大争闘下巻 407)。

「シャデラク、メシャク、アベデネゴの時代のように、主は地上歴史の最後の時代において、正義のために固く立つ人々のために、大いなる働きをなさるのである。ヘブルの勇者たちと火の燃える炉の中を歩かれた方は、どこであつても、主に従う人々とともにおられるのである。彼の臨在が彼らを慰め支える。国が始まってからその時に至るまで、かつてなかったほどの悩みの時の最中に、神に選ばれた人々は揺らぐことなく立つのである。サタンは悪の全軍をもってしても、神の聖徒たちの最も弱い者をさえ滅ぼすことはできない。強い力をもった天使が彼らを守る。そして主は、主に信頼する者を全く救うことがおできになる『神々の神』として、彼らのためにご自身をあらわされるのである」(国と指導者下巻 121)。

5- a. 食物と水

「このような人は高い所に住み、堅い岩はそのとりでとなり、そのパンは与えられ、その水は絶えることがない」(イザヤ 33:16)。

「神の民は苦難を免れるわけではない。彼らは迫害と苦しみに会い、窮乏に耐え、食物の不足に苦しむのであるが、滅びるままにほうっておかれたりはしない。

エリヤを養われた神は、ご自分の献身的な子供たちをひとりも見捨てられない。彼らの頭の毛までも数えられるお方が、彼らを保護し、ききんの時にあつて満ち足らせられる。悪人たちが飢えと疫病のために死んでいくときに、天使は義人を守り、その必要を満たすのである。『正しく歩む者』には、次のような約束が与えられている。『そのパンは与えられ、その水は絶えることがない』（各時代の大争闘下巻 404、405）。

「その時（悩みの時）に、われわれのパンと水は必ず与えられ、われわれが物に乏しかったり、飢えたりすることがないことを、わたしは見た。なぜならば、神は荒野で、われわれのために食卓の用意をすることがおできである。もし必要ならば、彼がエリヤを養われたように、われわれを養うためにからすを送ったり、あるいは、イスラエルのためになさったように、天からマナを降らせることもなさるのである」（初代文集 127）。

「悪人たちが飢えと渇きに苦しんでいる時に、天使たちは聖徒たちに食物と水を与えた」（初代文集 456）。

5- b. 大患難の時には殉教者はいない

すでに学んできましたように、神がご自分の民が殉教することを許されるのには、目的があります。というのは、わたしたちの大祭司イエスが天の至聖所で悔い改める罪人のために執り成しておられる間、すなわち恵みの期間の間には、霊的収穫のために殉教者の血が必要なのです。しかし、恵みの期間がひとたび終了した後は、神は、ご自分の愛される民のただひとりできえ、血を流すことを許されません。預言の霊は次のように語っています。

「この時、キリストの忠実な証人たちの血が流されたとしても、それは、殉教者の血のように神のために収穫をもたらすためにまかれる種とはならないのである。彼らの忠誠は、他の人々に真理を悟らせる証とはならない。なぜなら、強情な心は、寄せてくるあわれみの波を拒み続けて、それらが二度とかえって来ないようにしてしまったからである。今義人が、むぎむぎ敵のえじきになるならば、それは暗黒の君の勝利になってしまう」（各時代の争闘下巻 411）。

わたしたちが理解すべきもう一つの重要な事実は、時々耳にする話、すなわち「死にあずかることなく」という言葉についてです。なぜならば、「死にあずかることなく」という言葉を引用してSDA教会の基本教理である十四万四千人の問題までも誤って解釈されているからです。つまり、一八四四年から印する働

きが始まって以来、年を経て主にあって死んだ者は十四万四千人の中に入らないで、最後の患難を通過した者（患難を生きのまま経験する者）だけが、十四万四千人であると教えています。しかし、印する働きが始まった一八四四年以後、印を押された神の民はすでに主にあつて休んでおり、また恵みの期間が終了する直前、すなわち短い患難の間、真理のために多くの殉教者たちがあるということを通じて学びました。そうであれば、「死にあずかることなく」という言葉の意味は、患難期間中、特別に死刑令が出された後、神の民の中には決して殉教者がいないということです。次の証を読んでみましょう。

「サタンはいと高き神の聖徒たちを滅ぼす特権を得たいと望んだが、イエスが天使たちに命じて彼らを見守らせられた。神は、まわりの異教徒が見ている前で、神の律法を守った人々と契約を結ぶことによって、あがめられるのであった。またイエスは、長い間イエスを待ち望んでいた忠実な人々を、死を経験させないで天国へ移すことによって、栄えを受けられるのであった」（初代文集 456、457）。

わたしたちの父なる神と主イエス・キリストの栄光のために、恵みの期間が終わった後には、もはや殉教者がいないということがはっきりとわかります。したがって、患難の期間中に起こる特別復活には、一八四四年以後印する働きが始まってから、印する働きが終わる短い患難の期間中に自然死、もしくは真理のために殉教したすべての神の民が「栄化された姿で」復活することがわかるのです（初代文集 460 ページをご参照下さい）。

6. 患難のための準備

患難のための準備について、今日、多くの者は人間的な見解をもって、なにかに見えるものを集めたり貯えたりすることが準備であるかのように考え、またそのように行っています。しかし、このことについて、主の僕は次のように語りました。

「悩みの時の物質的 necessary のための準備をすることは、聖書に反することであることを、主は、繰り返してわたしに示された。もし聖徒たちが自分で、悩みの時に自分たちのところ、または畑に食糧を貯えていたりしても、国に戦争、ききん、疫病が起これば、それは暴徒たちに奪い去られ、他人が畑の作物を刈るようになることを、わたしは見た。それは、われわれが神に全く信頼する時である。そして神はわれわれをお支えになる。…悩みの時に、家や土地は聖徒たちにとってなんの役にも立たなくなる。その時、彼らは怒り狂った群衆から逃げなければならない。そしてその時、彼らの財産は、現代の真理の働きを推進するために用い

ることができないからである。聖徒たちが、悩みの時がやってくる前にすべての邪魔物を切り捨てて、犠牲によって神と契約を結ぶことが、神のみこころであることを、わたしは示された。」(初代文集 127, 128)。

前記の証によると、患難のためにわたしたちのなすべき準備は、なにか物質的なことではないということがわかります。では、神がわたしたちにお求めになる準備とは何でしょうか。

「あなたは神と和らいで、平安を得るがよい。そうすれば幸福があなたに来るでしょう。どうか、彼の口から教えを受け、その言葉をあなたの心におさめるように」(ヨブ記 22:21, 22)。

神は、ヤコブがヤボクの川における格闘以前に体験していた真心からの悔い改めをわたしたちにお求めになります。神と和らぐとき、試練においても真の平安を持つことができます。「彼の唯一の希望は、神のあわれみにすぎることであつた。彼の唯一の防備は、祈りでなければならなかつた。しかもなお、彼は、兄に対して行なつた罪惡の償いのためと、切迫した危険を避けるために、自分とすることができることはすべてなしたのである。そのように、キリスト者も、悩みの時に近づくにつれて、人々の前で自分たちの立場を明らかにし、偏見を取り去り、そして良心の自由を脅かす危険を避けるために、全力を尽くさなければならない」(各時代の争闘下巻 389)。

6- a. 準備を成し遂げる方法についての預言の靈の証

「この天使(黙示録 18:1 の天使)の働きは、最後の大きい働きにおいて第三天使の使命が大きい叫びとなつてもりあがるちょうどその時に始められる。神の民はこのようにして、まもなく会わねばならない誘惑の時に立つ準備ができるのである」(初代文集 448, 449)。

「しかし彼はわたしの歩む道を知っておられる。彼がわたしを試みられるとき、わたしは金のように出て来るであらう」(ヨブ記 23:10)。

(54 ページの続き)

こんですばやくにげるべきです。

「主よ、わたしはあなたに寄(よ)り頼(たの)む。とこしえにわたしをはずかしめないでください。あなたの義(ぎ)をもってわたしを助(たす)け、わたしを救(すく)い出してください。あなたの耳を傾(かたむ)けて、わたしをお救いください。わたしのためにのがれの岩(いわ)となり、わたしを救う堅固(けんこ)な城(しろ)となってください。あなたはわが岩、わが城だからです。わが神よ、悪(あ)しき者の手からわたしを救い、不義(ふぎ)、残忍(ざんにん)な人の支配(しはい)から、わたしを救い出してください。主なる神よ、あなたはわたしの若(わか)い時からのわたしの望(のぞ)み、わたしの頼(たの)みです」(詩篇 71:1～5)。

萵苣（ちしゃ）の豆腐あえサラダ

〔材料〕

萵苣	1束
豆腐	250g
しょう油	適量
梅酢	適量

〔作り方〕

1. ガラスのボールによく水切りをした豆腐を入れて、フォークでつぶします。
2. 萵苣はよく洗い、細かく刻みます。
3. 2の萵苣を豆腐のボールに入れますが、まぜる前にしょう油と梅酢をかけて、しんなりしたところで全体をかきまぜます。

萵苣（ちしゃ）とは、キク科の野菜で、葉を食用にします。結球するものと結球しないものがあります。レタス、サンチュ、昔ながらのカキチシャなどがあります。



梅の風味がさわやかなかんたんサラダです！

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。



書籍

【永遠の真理】 聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】 は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



元気なシマリス

「あなたの義(ぎ)は神の山のごとく、あなたのさばきは大きな淵(ふち)のようだ。

主よ、あなたは人と獣とを救(すく)われる。

神よ、あなたのいつくしみはいかに尊(たつと)いことでしょう。

人の子らはあなたの翼(つばさ)のかげに避(さ)け所を得(え)」

(詩篇 36:6, 7)

み

なさんはシマリスのことを見たり、聞いたりしたことはありませんか?この小さくてかわいい動物は、アメリカ合衆国東部やカナダの全域(ぜんいき)にわたって見ることができます。

これはリスのなかまの中でもっとも小さく、きれいなしま模様(もよう)の体に、くりくりした目、ぴくぴくよく動く耳、そして長くてフワフワのしっぽがあります。

シマリスは働き者で、おどろくほどの量のナッツや穀類(こく)やたねを、よくのびるほっぺたにたくわえることができます。ほおに入れた食べ物はあつめて、地面の下にかくしておきます。そして、これがこの小さな生き物に、さむい冬の数ヶ月間、栄養(えいよう)をあたえます。シマリスはときどき冬眠(とうみん)からめざめて、注意(ちゅうい)ぶかくたくわえたごちそうを楽しみます。

シマリスはお互(たがひ)いに、あるいはグループで楽しくおしゃべりをします。彼(かれ)らはまた危険(けんけん)があると互(たがひ)いにすばやく警告(けいこく)し、さっと走(はし)ってにげます。主(しゅ)は、シマリスにすばやく自分(じぶん)たちの命(いのち)をうばう動物界(どうぶつがい)の敵(てき)から走り(はし)るスピードという祝福(しゅくふく)を与(たま)えてくださいました。

聖書(せいしょ)の中で、詩篇(せいへん)記者(きしゃ)(しへんきしゃ)は次のように祈(いの)っています。「主(しゅ)よ、わたしをわが敵(てき)から助け(たす)け出(だ)してください。わたしは避け(さ)け所(ところ)を得(え)るためにあなたのもとにのがれました」(詩篇 143:9)。ここに、子どもや青年(せいねん)たちが、悪いことをしようとする人々(ひとびと)が近づ(か)りてきた時のための単純(たんじゆん)な教訓(きょうくん)(きょうくん)があります。元気(げんき)なシマリスのように、誘惑(ゆうわく)や問題(もんだい)がやってくるやいなや、子供(こども)はよる